



「多様な社会」を考える  
学びのプログラム集

2021年度 JICA中国 教師国内研修

独立行政法人国際協力機構  
中国センター(JICA中国)

## はじめに

全世界196ヶ国のうち開発途上国と呼ばれる国は140カ国以上もあります。それらの国の現状や課題、あるいは歴史的背景や先進国との関係などを知らずして、世界の今は語れません。多様な民族、言語、文化、暮らし、考え方、宗教などがあることに興味を持つ好奇心と、その多様性や違いを尊重する謙虚な姿勢がないと、グローバル人材は育成できません。

独立行政法人国際協力機構（JICA：ジャイカ）は、開発途上国における事業で培った経験と人材を活用し、日本国内の国際教育の発展に寄与するための活動として「開発教育支援事業」にも長年にわたり積極的に取り組んできました。開発途上国の抱える問題に関心を持ち、全国の小・中・高等学校・特別支援学校において国際教育に取り組んでおられる、または今後それらに取り組むことを考えておられる教員の方を対象に実施してきた「教師海外研修」もその事業のひとつです。

しかし、コロナ禍により昨年度に引き続き本2021年度も、海外研修を実施することができませんでした。そこで、中国地方の教員の方を対象に、昨年度同様、地域の課題を学ぶ「教師国内研修」を実施いたしました。本コースに参加された5名の教員の皆さんは、中国地方において日本の課題や地域の国際化を学ぶことのできる現場を訪問し、多文化共生に取り組む方々の想いや活動への理解を深められました。その成果として、同研修に参加された教員の方が「熱いハート」と「クールな頭脳」を駆使し、フィールドワークや講義から吸収した多くの情報をもとに、一般の教職員の方にも教室ですぐにご活用頂けるよう作成されたのが、この「学びのプログラム」です。

なお、同研修の実施および本プログラム作成にあたっては、川崎医療福祉大学の山中信幸教授にアドバイザーとしてご参加いただき、年間を通じてご指導を賜りました。

本冊子が、「持続可能な社会の創り手」である児童生徒の育成に尽力されている教職員の皆さまの参考となり、学校教育現場での実践の一助になれば幸いです。

独立行政法人 国際協力機構 中国センター所長  
岡 田 務

# 目次

## contents

はじめに .....	1
プログラム集の使い方 .....	3
JICA中国 教師国内研修概要 .....	4
教師国内研修フィールドワークトピックス .....	6
「多様な社会」を考える学びのプログラムとは .....	8

### 学びのプログラム

1. 他者の考え方を認めることができるような人に .....	14
2. みんなが気持ちよく暮らすために .....	25
コラム① これからの「多文化共生教育」 ～学校の皆さんへ伝えたいこと～ .....	38
3. 持続可能な地域をつくるにはどうしていけばいいのだろうか ...	40
コラム② 外国人材と多文化共生 ～地域を担う外国人について .....	69
4. この地球で暮らし続けていくために考えてみよう .....	72
5. 相手の価値観を認め、歩み寄ることを学ぶ .....	83
コラム③ 「友好交流」と「戦争の実相を伝える」ことの大切さ .....	102
最後に -学びのふり返し-	104

※本冊子に記載されている意見は、本コース参加者および執筆者によるものであり、JICAを代表するものではありません。

## プログラム集の使い方

本プログラム集は、はじめて開発教育・参加型の学習を実践しようとしている方、多文化共生や持続可能で多様な社会の構築について考えたいという方が、すぐに実践できるように作成しました。

実践に必要なワークシート、実践者用の解説・補足資料など、そのまま活用できる形で掲載しています。紙面からコピーして頂くか、付属CDからダウンロードしてお使いください。

また、紙面に「見本」として掲載している一部カード素材やパワーポイント資料も、オリジナルデータをCDに保存しております。実践する場面や対象、実施時間によって、より使いやすいように加工して頂くことも可能です。

☆CDには以下のようにデータが保存されています

- ▼ 01\_ 他者の考え方を認めることができるような人に
  - 📄 P16\_ ワークシート \_1.pdf
  - 📄 P20\_ ワークシート \_2.pdf
  - 📁 P21\_ タブレット学習用素材
  - 📄 P23\_ ワークシート \_3.pdf
- ▶ 02\_ みんなが気持ちよく暮らすために
- ▶ 03\_ 持続可能な地域をつくるにはどうしていけばいいのだろうか
- ▶ 04\_ この地球で暮らし続けていくために考えてみよう
- ▶ 05\_ 相手の価値観を認め、歩み寄ることを学ぶ

☆本プログラム集は、JICA中国HPでも公開しています。HPからのダウンロードも可能です。

JICA中国HP>開発教育支援事業（国際教育／ESD）>JICA中国作成資料

# JICA中国 教師国内研修 概要

## JICAの国際教育プログラム(開発教育支援事業)

グローバル化が進む現在、地球に暮らす私たちが自らの足元を見つめ直し、日本を含めた国際社会が抱える課題に取り組むことが急務となっています。そのため、国際教育や開発教育、持続可能な開発のための教育(ESD)といった取組みを多くの教育機関が実践し、その関心と需要はますます高まっています。

また、本格的に導入された新学習指導要領では「持続可能な社会の創り手の育成」の重要性が掲げられ、高等学校で必須科目となった「地理総合」では国際理解と国際協力が3本柱の一つに位置付けられました。教育現場の状況も大きく変化する中、多様な価値観・生活習慣をもつ人々と国内外で共存できるよう、児童生徒が互いの文化を理解し、尊重し合い、違いを認められるなど、新たな社会で生きていくために必要な資質・能力を育むことが求められています。

国際協力活動は主に開発途上国の現場で行われていますが、JICAでは途上国と日本の地域との懸け橋となるべく、国内でも様々な事業を行っています。中でも、長年にわたる国際協力の知見を活用して、小・中・高校や大学、教育委員会や自治体、市民団体などと連携して展開しているのが国際教育プログラム(開発教育支援事業)です。

JICA中国では、国際協力出前講座、JICA中国施設訪問、開発教育指導者研修といったプログラムを通じて、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業づくりを支援しています。

## 教師国内研修とは

JICAでは、国際教育・開発教育に関心を持つ教員を対象に、実際に開発途上国を訪問し、国際協力の現場を視察することで、途上国の現状や日本との関係性、国際協力への理解を深め、その成果を、学校での授業等を通じて、地球の未来を担う児童生徒への教育に役立ててもらうことを目的として「教師海外研修」を実施してきました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大にともない、海外渡航が困難となった2020年以降は、国内での研修を実施しました。

地域が急速に国際化する今、異文化に触れ、多様性を考える場面は海外だけではなく、また、誰ひとり取り残さない社会とはなんなのか、自然環境にも地域の経済発展にも市民の暮らしにも配慮した持続可能な社会をどう構築していくのか、そしてそれを「持続可能な社会の創り手」とされる児童生徒にどう伝えていくのかなど、自分たちが暮らす地域で足元を見つめ直すことで出てくるものがたくさんあります。

本研修に参加された5名の先生は、参加型学習プログラム作成の基礎やポイントを学び、国内のフィールドワークで得た知識、情報を分かりやすく整理して、同研修に参加していない教員の方にも広く実践して頂けるよう、学びのプログラムを作成されました。

参加教員の自己研鑽にとどめることなく、自身が得た知見と想いを地域の「共有財産」として広く教育現場に伝えていただくこと、それが本研修のねらいです。



## 「JICA中国 教師国内研修」のながれ

2021年 4月～6月

### 募集・選考

2021年 6月26日(土)

### 事前研修① オンライン実施

- 「開発教育とはなにか？」「開発教育につながると思う新聞記事を探す→その意図を考える」  
講師：山中 信幸 教授（川崎医療福祉大学）
- 「『開発教育教員研修アドバンスコース』参加者による講義－体験を学びのプログラム作成にどう生かすのか」  
講師：川上 典剛 先生（2020年度開発教育教員研修アドバンスコース／  
2018年度教師海外研修（スリランカ）参加者）

2021年 7月17日(土)

### 事前研修② JICA中国

- 8月フィールドワークの行程と各訪問先の概要を共有、学びのポイントを確認。
- 講義とワークショップ：学びのプログラム作成を見据えたフィールドワーク参加の留意点、ポイント  
講師：山中 信幸 教授（川崎医療福祉大学）

2021年 8月

### フィールドワーク① 広島県(オンライン含む)

- 8月11日(水) 参加者が事前に調べてきた訪問先情報を共有
- 8月12日(木) 広島県・大久野島訪問：山内正之氏の案内で、毒ガス資料館や島内の戦争遺構を見学。
- 8月13日(金) 朝：パラグアイの「ラパス日本語学校」の児童生徒、教員とのオンライン交流  
午後：JICAベトナム事務所によるオンライン講義「JICAベトナム事務所における『外国人材受入への貢献』に向けた取り組み」
- 8月14日(土) 朝：在パラグアイ広島県人会 河野会長とのオンライン交流
- 8月16日(月) 午前：オンライン講義「地域の知見を活かして展開する草の根技術協力事業」  
（岡山県津山市役所、社会福祉法人やすらぎ福祉会）  
午後：オンライン講義「スーダンで展開する中小企業・SDGsビジネス支援事業」  
（大紀産業株式会社）

※中国地方の集中豪雨により行程、内容を一部延期・変更して実施しました。

2021年 11月

### フィールドワーク② 島根県雲南市・江津市訪問

- 11月27日(土) 「多文化共生カフェSoban」を訪問。カフェでの取組み、「一般社団法人ダイバーシティうんなんtoiro」の活動について聞く。
- 11月28日(日) 「日本語交流クラブ GOTO☆ワンハート」の活動に参加。ベトナム料理交流会、技能実習生との意見交換。

2021年 12月4日(土)

### 事後研修 JICA中国

- フィールドワーク全体のふり返り ●各自が考えた「学びのプログラム」案を参加者全員で体験、協議。

2022年 1月29日(土)

### 第2回国際教育研修会 オンライン実施(参加者38名)

- 教師国内研修の報告 ●「学びのプログラム」のワークショップをオンラインで実施

主催：独立行政法人国際協力機構 中国センター（JICA中国）

後援：広島県教育委員会、岡山県教育委員会、山口県教育委員会、島根県教育委員会、  
鳥取県教育委員会、広島市教育委員会、岡山市教育委員会

# 教師国内研修フィールドワークトピックス

## 広島で知る戦争と平和—加害の歴史から考える(広島県大久野島訪問)

現在「うさぎの島」として多くの観光客を魅了する大久野島には、かつて秘密裏に毒ガスが製造されていたことを示す戦争遺構が多く残されています。

当日は、大久野島の歴史を研究され、長く平和学習を行っている山内正之さんの案内と説明で、島内を一周しました。防空壕、毒ガスタンクの貯蔵庫や発電所兼風船爆弾を製造していた工場の跡地など、今も生々しく残る戦争遺構を目の当たりにし、参加の先生方は言葉を失っていました。第二次世界大戦であまりに甚大な被害を受けた広島で、別の視点から戦争と平和を考える時間になりました。



## もう一つの日本—南米パラグアイとのつながり(オンライン交流)

広島にはもう一つの顔があります。それは全国第一位の移民送出県であるということ。第二次世界大戦前後にあわせて約11万人が北米や中南米へ移住し、一世紀以上が経った現在、世界各地で広島にルーツをもつ日系人が活躍しています。中でも、1956年に県東部の沼隈町(現福山市沼隈町)が町主導でパラグアイへ集団移住を行った「町ぐるみ移住」は、全国でも大変珍しいケースで、移住先となったフラム(現ラパス)を中心に、現在も2世、3世が生活しています。

JICAパラグアイ事務所の協力を得て、「ラパス日本人学校」とオンライン交流を行いました。本研修参加の先生方がこの日のために準備した、日本の児童生徒が作成した動画やメッセージを流したり、クイズで日本の今を伝えたりと、交流の時間はあっという間に過ぎていきました。また、日本人学校の先生方との意見交換では、現地での日本語学習の難しさ、子どものアイデンティティや文化継承の問題などもテーマに上がりました。



子どもの頃にパラグアイへ移住した1世でもある、在パラグアイ広島県人会長の河野敏さんにもオンラインでお会いしました。ご自身が移住した当時のパラグアイの様子、苦勞したこと、楽しかったこと、そして現在の子弟に抱く想いや現地の人々との共生社会など、今の日本が直面する多文化共生社会へのヒントになるような示唆に富んだお話を伺いました。

## 「岡山から世界へ」を体現するプロフェッショナル(オンライン講義)

岡山県津山市は、JICA草の根技術協力事業を通して、ベトナムの高齢者を対象にした介護予防活動を開始予定です。独自の「こけないからだ体操」を通じた介護予防プログラム、地域での知見をベトナムの問題解決に活かす活動内容や今後の展開などを伺いました。

社会福祉法人やすらぎ福祉会の平井理事長からは、日本の介護現場と外国人材の現状をお聞きしました。外国人に選ばれる日本にしなければ日本は成り立たない、外国人が日本の経験を活かして母国でも活躍できるような、また再び日本を選んでくれるような環境と制度を整えなければならない。現場の方からの熱いメッセージを、参加の先生方は真剣な面持ちで受け止めていました。



岡山市に本社を置く大紀産業株式会社は、JICA中小企業・SDGsビジネス支援事業を通じて、2015年からスーダンで玉ねぎの付加価値向上のため電気式乾燥機の普及を目指し、現地調査を続けていらっしゃいます。ビジネス環境が整っていないスーダンで、なぜビジネスに挑戦しようと思ったのか。そしてその取り組みの成果と課題、今後の展望を安原宗一郎社長に伺いました。

自治体や社会福祉法人が行う介護事業と企業が展開するビジネス、活動内容も対象地域も異なるものの、長年の経験と豊富な知識、そして高度な技術を持ったプロフェッショナルが自身の知見を惜しみなく提供することで、途上国の課題解決に取り組まれていることは大きな共通点でした。そして、それらの地道な活動が、国内外を問わず、持続可能で誰ひとり取り残さない社会づくりに貢献していることに、改めて気づかされた1日でした。



## 島根県で考える多文化共生（島根県雲南市・江津市訪問）

雲南市に暮らす韓国出身の李在鎮さんと日本語教師の芝由紀子さんが家族で運営する「多文化共生カフェSoban」を訪問。国際交流員として来日した李さんからは、来日前のことや日本で外国人として感じたこと、今後の夢や計画についてお聞きしました。



芝さんには、ご自身が代表を務める「一般社団法人ダイバーシティうんなんtoiro」の活動や市と連携して行う取り組みについてお話を聞きました。

お二人の話から、変化し続ける日本の地方の魅力と課題、私たちが市民としてできること、そして外国にルーツを持つ子ども、保護者と学校現場との関係づくりなど、様々なテーマについて考える時間となりました。

江津市で活動する「日本語交流クラブ GOTO☆ワンハート」を訪問。主宰者の山藤美之さんは、青年海外協力隊経験者であり、元教員でもあります。江津市で働く技能実習生との出会いから生まれた日本語教室や交流プログラムについて、軌道に乗るまでの苦労や現在の取り組み、その成果についてもお話を聞きました。

当日はクラブに参加する技能実習生も多くご参加下さり、ベトナム人の皆さんに教えてもらいながら、ベトナム料理を一緒に作りました。彼らとの座談会では様々な質問にお答え頂きました。出発時に高額な経費負担があったことや仕事・日常生活で困ること、「GOTO☆ワンハート」との出会いや、そこに参加することで会社の上司をはじめ、周りの日本人が変わっていったことなど、調理時間での弾けるような笑顔からは想像のつかない苦労があったことを知り、参加の先生方はまた新たな想いや感想を抱かれたようでした。





# 「多様な社会」を考える学びのプログラムとは

JICA中国教師国内研修アドバイザー 山中 信幸（川崎医療福祉大学 教授）

## 1. はじめに

本書に収められた学習プログラムは、日本にいる外国人との共生の在り方を考えるための学習プログラムばかりではない。それは、今の「多様な社会」において、様々な背景をもつ児童・生徒が協働し、持続可能な社会の在り方を考えるための学習プログラムを提案するために作成したものだからである。自分のアイデンティティについて考えることから、多様な社会について考えることもできる。構造的暴力をも視野に入れた積極的平和の構築について考えることで、グローバルな視点で自らの足もとを見つめなおし、ローカルな取り組みについて考えることも可能である。地域づくりをテーマにSDGsとの関連について考えることから、SDGsのトレードオフに気づき、共生できるまちづくりを構想することもできる。

本書は、教師国内研修に参加した教師が共に知恵を出し合い、試行錯誤を繰り返しながら、互いに視野を広げ、視座を高め、「外国人との共生」という枠を越えた『多様な社会』づくりに参加し、他者を理解し、他者と共に生きる力を育むことのできる学習プログラムを提案するものである。

いわば、本書に掲載した学習プログラムは「広義に捉えた多文化教育」ということができよう。つまり「多様な人間関係づくり・社会づくり」を念頭においてつくられたものである。では、「広義に捉えた多文化教育の学習プログラム」とは何かについて整理してみよう。

## 2. 多文化教育とは

多文化教育とは、「人種や民族、社会階層、ジェンダー、性的指向性、障がいの有無など、あらゆる文化的集団に属する人々に構造的な平等、及び集団間の共存・共生の実現をめざす教育理念及び、教育実践であり、教育改革運動でもある。その基底には、自由、平等、正義、公正、人間の尊重といった哲学的理念が存在する。具体的には、多様な文化集団の視点からの学習プログラムやカリキュラムの開発、学習者の言語的多様性の尊重、すべての学習者の学力保障や多文化コンピテンシーの育成等々、多様な取り組みを含む<sup>1)</sup>。」と定義されている。

つまり、多文化教育とは、人々が交流し、お互いにより尊重しあえば、異文化間に存在する様々な問題はおのずと解消されるから、今ある社会的な事情はそのままにして、文化的背景が異なる生徒たちが互いに仲良くする<sup>2)</sup> ことができる方法を考える学習活動ではない。多文化教育とは、異文化に対する偏見をなくすための取り組みだけでなく、社会的な不平等や差別、貧困、社会的・政治的弱者が直面する抑圧などの問題を積極的に解決するための取り組みが必要なのである。

## 3. 多文化教育の問題点

そもそも多文化教育は、1950年代にアメリカでおこった黒人による公民権運動の中から始まったものである。それが、1970年代に黒人やヒスパニック、ネイティブ・アメリカンなどのマイノリティと称される人々による教育要求へと広がっていった。つまり、多文化教育は「アメリカの歴史、政治、文化を形成してきた多様な集団に関する知識を生徒に提供する<sup>3)</sup>」ものであった。その後、世界的な市民運動や社会運動の広がりと共に、多文化教育が扱う領域は拡大し、実践する国や地域も広がったのである。その中で多文化教育とは「多民族国家において、多種多様な文化的・民族的背景を持つ青少年、特に少数民族や移民など、社会的に不遇な立場にある集団の子どもたちに対して、平等な教育機会を提供するために、彼らのエスニシティ（民族的・文化的帰属性）や文化的特性を尊重し

て行われる教育<sup>4)</sup>」であり、「多文化教育は、教育改革をめざす社会運動でもある<sup>5)</sup>」とされていた。つまり、多文化教育とは多民族国家内における、文化的差異による社会的な不平等をなくするための教育活動であり、社会運動として考えられてきたのである。換言すれば、一国内において、異文化を持つ人と人、異文化を持つ人と社会との関係性に注目し、その関係性の中にある社会的不平等について考える教育活動である。

このように、多文化教育の概念は、それぞれの実践者や研究者の多様なとらえ方により、様々に形成されることとなったといえる。概ね、それは表1としてまとめられ、多文化教育のとらえ方は5つの類型に整理される。

表1 多文化教育のとらえ方に関する5つの類型

多文化教育の類型	目 的	問 題 点
異なる者および文化的背景を異にする者に対するアプローチ	マイノリティグループの子どもたちに、メインストリームの社会に適応するための価値観と、学力的な基礎を身につけさせる。	主流文化に同化させるための手段であり、文化的不連続性に関する諸問題や <b>抑圧</b> の要因に関する分析などは考慮されていない。
人間関係中心のアプローチ	文化的な内容を教えるというより、人間はなぜ偏見を持つのか、またそれをどのように克服できるのかについての理解を促し、文化的背景が異なる生徒たちが、お互いに仲良くなることをめざす。	「私とあなたの関係は良好」というイデオロギーを支持することによって、現実には生起する個人間および集団間の軋轢を見逃しかねない。また、 <b>貧困や社会的弱者</b> に関しては何ら関心を示さない。
単一集団研究アプローチ	学習者が属する集団（例えば日系アメリカ人や女性）の歴史や文化についての知識の習得、その集団のエンパワメント、集団の社会的地位の向上、社会における集団間の平等の実現、文化的差異への対応が可能な民族問題学習をめざす。	学習者が属する集団以外の属性（例えばジェンダーや階級）については、言及しない。また他の周縁集団についての学習やその集団との共働に <b>無関心</b> である。
多文化教育アプローチ	民族的な多様性を反映するように、異なるエスニック・ジェンダー・社会経済的そして能力集団に属する人々の視点をよりどころにカリキュラムを組織化する。また、教科としての学問を教えるとき、知識のみの獲得を目的とするのではなく、リーダーとしての力、批判的に考える力を身につけさせ、それを用いることを教える。	<b>貧困や失業</b> に関する諸問題に積極的に言及しないことや、特定のエスニック集団にとっては必要となる政治力や集団の結束力の形成に必ずしも寄与しない。
多文化的で社会構築主義的な教育アプローチ	多元的な視点および人種、階級、ジェンダー、障害、性的指向性に関する諸問題を扱い、社会における教育改革を目的とする。そして、自らの暮らしをコントロールし、より生産的な市民になれるように、民主主義の道具立て（様々な問題についての情報提供、環境の分析、社会に変化をもたらす行動など）を活用することを教える。	「教職員構成やカリキュラム、授業、評価など学校教育のあらゆる領域は多文化的でなければならない」「そのカリキュラムは、多元的な視点および人種、階級、ジェンダー、障害、性的指向性に関する問題を考慮しなければならない」「授業では民主的原則が実現されなければならない」など制約が厳しすぎる。

（Carl A. Grant「多文化教育：いくつかのアプローチ」『多文化教育事典』2002年、pp.235-241より筆者作成。山中・2006年。）

表1からもわかるように、多文化教育における実践は、その目的や内容によって様々なアプローチが考えられるものであるが、そのことは、多文化教育が一貫性を欠いていると批判される一因ともなってきた。また、多文化教育のそれぞれのアプローチについては、各々の問題点が指摘され、そこに多文化教育が持つ実践上の脆弱さが窺えるといえる。

そこで、これらの問題点について、以下でさらに詳細に整理してみよう。

表1にあるように、多文化教育のそれぞれのアプローチの問題点には、いくつかの共通するキーワードを見いだすことができる。そのキーワードとは、「抑圧」・「貧困」・「社会的弱者」・「失業」である。

先述したように、多文化教育は多民族国家内における、少数民族や移民など社会的に不遇な立場にある集団が直面する不平等を問題にする教育活動であって、国家を超えた領域までをその対象とするものではない。しかし、グローバル化された現代においては、「貧困」「抑圧」などのキーワードに関する諸問題は、他の国や地域との相互依存的な関係の上に存在するものであり、一国内の問題として、その解決を図ることは困難な状況にある。そのようなグローバルな課題に関しては、多文化教育が扱う内容領域を大きく超えるものである。しかし、社会的に不遇な立場にある集団が直面する不平等を問題にする場合、その具体的な事象として「抑圧」・「貧困」・「社会的弱者」・「失業」などの構造的暴力を取り上げ、その原因について考える必要がある。なぜなら、これらの原因について考えることがなければ、社会的不平等の状況や背景を具体的に理解することは困難であるといえるからである。つまり、グローバル化された現代においては、多文化教育が扱う内容領域を広げ、国内的問題だけではなく、グローバルな課題を取り上げる必要がでてきたといえるのである。そして、このことが「広義に捉えた多文化教育」ということができよう。

#### 4. 多文化教育のカリキュラム編成

多文化教育における「知」は、多文化社会を構成しているエスニック、人種、言語、宗教、世代、ジェンダーなどに関するマイノリティ集団についての歴史的経験や現状について知ることだけでなく、学習者の社会参加を促すプロセスをも含んでいるのである<sup>6)</sup>。そして、そのような多文化教育におけるカリキュラム編成は、一教科、一学年におけるものとして考えるのだけでは不十分であり、学校教育全体のカリキュラムとして構成する必要があるのである<sup>7)</sup>。そこで、James A. Banksは多文化教育がどの程度広範に、そして効果的に実施されているかを考える際の判断基準として、次の5つの次元を示している<sup>8)</sup>。

すなわち、5つの次元とは、「内容の統合」「知識形成の過程」「偏見の軽減」「公正な教育方法」「生徒をエンパワーする学校文化と学校構造」の5つであり、その5つの次元は、個々に独立したのではなく相互に関連しあっている。それぞれが示す内容については表2の通りである。

表2 多文化教育の5つの次元

多文化教育の次元	各次元の内容
内容の統合	教師が授業において、重要な概念、原理、一般化理論を例証する際に、多様な文化や集団に関する事例や内容を参照し、用いられているか。
知識形成の過程	授業において内在する文化的前提が、その授業内における知識形成にどんな影響を及ぼすかについて、学習者が理解し探究し、結論づけるように、教師が援助しているか。

偏見の軽減	学習者に民主的な態度や価値観を体得させ、学習者が自らの偏見に気づき、学習者に偏見を持たせない教育実践が行われているか。
公正な教育方法	すべての人種的、文化的、性的、社会階層集団の学習者が公正に学業の達成ができるように、教師の教育活動が改善されているか。
生徒をエンパワーする 学校文化と学校構造	クラス編成やスポーツ活動など学校におけるすべてのプログラムを、学校の全構成員によって、あらゆる人種、民族、ジェンダーの生徒がエンパワーするように再検討されているか。

(James A. banks「多文化教育：いくつかの次元」『多文化教育事典』2002年、pp.241-248より筆者作成。山中・2006年。)

また、多文化教育のカリキュラムを開発するための重要な要素としては、以下の3点をあげることができる。その3点とは、第1に、これまで正しいと思われてきた事実が、どのように構築されたものか、また、その知識は偏見や経験、認識にどのような影響を受けているかについて考えるという「事実的知識の獲得」。第2に、ある出来事に対する疑問や関心から、仮説をたて、概念化し、その仮説を検証することにより、新たな探究につなげるという「概念的知識の形成」。第3に、学習者が自らの価値観について考えにより、自らが持つ偏見に気づき、学習者が民主的な価値観を持ち、自らの道徳的決定に基づいて行動できるようになる「価値観の問い直し」の3点である<sup>9)</sup>。

しかし、文化の多様性を認め、文化の違いに起因する葛藤や誤解を積極的に解決しようとする態度を育成するためには、この3点だけでは不十分である。なぜなら、この3点だけでは、知識や価値観の育成はできても、文化間の葛藤や衝突などの問題を解決するために行動することができる人格を育成することは難しいといえるからである。

そこで、この3点に「寛容的態度の育成」を加えることとする。周知のように、ユネスコは第28回ユネスコ総会(1993年)『寛容の諸原理に関する宣言』において、「寛容とは、世界の諸文化の豊かな多様性、また人間であることの様々な表現の形態やあり方の豊かな多様性に対する尊敬、受容、評価である<sup>10)</sup>」としている。つまり、寛容とは異質なものを認め、受容することであり、寛容の教育とは文化の違いに起因する葛藤や誤解を解決するために何ができるかを考えることであるといえるのである。

では、これまで日本においては、どのような多文化教育の実践が行われていたのだろうか。誤解を恐れずに言うなら、これまでの日本における多文化教育としての実践はマジョリティがマイノリティについて学習するという性格が強く、マジョリティのあり方を問い直すという双方向学習の視点が希薄であったといえよう。しかし、異文化を理解するためには、文化的背景の異なる人々やマイノリティの人々が置かれている社会的状況を理解するとともに、自己や自己の文化を相対化し、自己の偏見に気づくことが重要なのである。つまり、シンパシーを乗り越えたエンパシーが今、求められているのである。

つまり、「広義に捉えた多文化教育の学習プログラム」とはどのようなものであろうか。それは以下の4点の特徴をもった学習プログラムであるといえよう。

すなわち、その第1は様々な構造的暴力に目を向け、グローバルな課題を中心的概念に据え、リアリティを持って異文化理解ができる学習プログラムにすること。そして、グローバルな課題を解決するためには、人と人、国と国、国と人、人と自然といった様々な相互の関係性における不公正を、公正で共生が可能な関係性へと再構築する方法を考える力が必要であるということを教師が理解しておくことが肝要である。

第2は、自己や自己の文化を相対化し、自己の偏見に気づくことのできる学習プログラムにすること。異文化、すなわち他者を理解するためには、文化的背景の異なる人々やマイノリティの人々が置かれている社会的状況を理解するとともに、自己を相対化し、自己の偏見に気づくことが重要なのである。

そして第3に、そのような学習プログラムは継続的な取り組みとすること。このことについて、James A. Banksは「学校における多文化教育の実施は、二、三週間や数年では完了しえない継続的なプロセスである」としている。

## 5. おわりに

「広義に捉えた多文化教育」における学習活動は、単に文化的背景の異なる人々やマイノリティと称される人々について共感的に理解することに留まるものではない。「広義に捉えた多文化教育」において大切にすべきは、学習者と教師が共に、自己や自己の文化を相対化し、自己の偏見や無関心に気づき、自己を省察しながら、協働して、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習活動となるように工夫することである。そしてその学習活動は、継続的・系統的・体系的な取り組みとなるよう試行錯誤を続けることが重要なのである。

今回、この『「多様な社会」を考える学びのプログラム集』では、それぞれ数時間配当の学習プログラムを掲載した。もちろん、その学習プログラムをそのまま追試することで、学習者に気づきや学びの機会をもたらすことはできよう。しかし、その取り組みはあくまでもスタートラインに立つことに過ぎない。本当に重要なのは、その学習プログラムを目の前の学習者の状況や背景を踏まえて、いかに作り変え、新たな学習プログラムとして継続的・系統的・体系的な取り組みとするかということである。

「『多様な社会』を考える学びのプログラム」とは「みんな違ってみんないい」と、単純に多様な文化や考え方に敬意を払い、認め合える社会づくりの担い手を育てるための学習プログラムをいうのではない。「『多様な社会』を考える学びのプログラム」を実践するにあたって最も重要なことは、多様な文化や考え方を尊重し、寛容でありつつも「他者の命や人権」を踏みにじることは絶対に許されないということを常に念頭におき、積極的平和の構築に向けて「何ができるか」を児童生徒と共に考え、「何事にも無関心でない」という強い信念を持って実践に取り組むことが重要であるということを示す。

なお本稿は、山中信幸(2007)「多文化教育のための教材の開発原理」『教材学研究 第18巻』日本教材学会に加筆、修正を加えたものである。

- 1) 森茂岳雄「多文化教育」日本国際理解教育学会編著『現代国際理解教育事典』、明石書店、2012年、p.216。
- 2) 中島智子「多文化教育と在日韓国・朝鮮人教育」『多文化教育と在日朝鮮人教育』全朝教ブックレット、1995年、p.34に詳しい。
- 3) Allen Hunter、中島智子・太田晴雄・倉石一郎訳「多文化教育」『多文化教育辞典』明石書店、2002年、p.233。
- 4) 江淵一公「多文化教育」『国際教育辞典』アルク、1991年、p.34。
- 5) 同上。また田淵五十生は『「在日コリアン」の教育が国際理解教育に示唆するものー『異文化理解』から多文化教育の発想へー』『国際理解教育・Vol.5』日本国際理解教育学会、1999年、p.19で「多文化教育の実践は、個人にとっては広義の人格形成や価値観形成に関わる教育であり、地域社会にとっては教育改革や社会改革の運動でもある。」と述べている。
- 6) James A. Banks、平沢安政訳『多文化教育』サイマル出版会、1996年、pp.48-49。また、「多文化教育の知」については、中山京子「多文化教育の知の導入による小学校社会科学習内容の再構築ー単元『海を渡る日系移民』の開発を事例としてー」『社会科研究・第65号』全国社会科教育学会、2006年、pp.31-40に詳しい。
- 7) 同上書、James A. Banks、pp.21-27。
- 8) James A. Banks「多文化教育：いくつかの次元」前掲3)、pp.241-248。
- 9) 前掲書6)、James A. Banks、pp.117-154を参考に筆者が明文化した。
- 10) UNESCO、「Declaration of Principles on Tolerance」第1条第1節。このことは、小林亮「異文化間トランスの形成に向けたユネスコの国際理解教育」『国際理解教育・VOL11』日本国際理解教育学会、2005年、pp.48-65に詳しい。
- 11) 前掲書6)、James A. Banks、p.21。

# 学びのプログラム



# 他者の考え方を認めることができるような人に

## はじめに

私は、JICA中国の教師国内研修に参加して「多文化共生」について考える機会をいただいた。そして、「多文化共生」とは、考えれば考えるほど、正解が分からなくなると感じた。複雑な事柄が絡み合う「多文化共生」のゴールに向かうためには、様々な方向から一步一步進めていくしかないことも学んだ。子どもたちが小学生から中学生、高校生と成長していく中で、発達段階に応じた「多文化共生」について学び、一つひとつ考えていくことが大切であると考えている。

最近、私が気になったのは、ある男の子の「男だから青が緑がええんで」という発言だ。このように、子どもたちの中には、男女によって区切られた好きな色などに対するイメージがあるように感じる。しかし、この発言に対して「私も青好きやし」と言った女の子がいた。その通りだと思った。好きな色などは、男女によって区切られるのではなく、個人によって違う。このことを当たり前と感じる子どもたちであってほしい。

このプログラムが、子どもたちの既存のイメージ（固定概念）を刺激し、子どもたちの考えるきっかけとなってくれれば嬉しい。

## この教材の使い方・参加のルール

この教材は、小学校1年生から3年生の発達段階の児童を対象としている。「みんな違ってみんないい」を最終的なねらいとして寛容的に授業を進めることで、参加した子どもたちが互いの価値観を認め合うことができるようにしたい。

さらに、多文化共生の教材ではあるが、学級経営にも活用できると考えている。各学級には様々な児童が在籍しているため、多文化共生の縮図であると言える。教員がそれぞれの児童の特性を理解し、様々な意見を引き出すことで在籍している児童は多くの価値観に触れることができる。しかし、算数や理科などの教科の学習では、多様な回答をすべて認めることはとても難しい。国語や道徳、学活などの時間にこの教材を使って、多様な回答を導き出すことで、児童同士がお互いのことをより一層知り、認め合える関係を作りたい。また、自分の意見を周囲の人に認めてもらう経験を通して、自己肯定感を高め、学習に対する充実感を味わわせたい。

## 全体のねらい

同じものを見ても想像することが違ったり、同じことを聞いても考えることが違ったりすることを実感する。小学校低学年という発達段階の時期に、他者との違いを感じ、それを楽しむ活動を行うことで、今後の実生活においても様々な人の価値観を認めていこうという意識を育てる。

## 学習計画（全4時間）

- (1) 友だちと力を合わせて答えよう。
  1. 友達と一斉に質問に答える。
  2. 得点を計算する。
- (2) 物語を聞いて絵を描こう。
  1. 物語を聞く。
  2. 絵を描く。
  3. グループで同じところと違うところを見つける。
- (3) 物語を聞いて花束を作ろう。
  1. 物語を聞く。
  2. 花束に色を塗る。

3. 主人公の性格を知る。
4. もう一度、花束の色を塗る。
5. 2つの花束を比較し、振り返る。

## 教科・領域との関係

- ・学活（アクティビティ1・アクティビティ2・アクティビティ4）
- ・国語（アクティビティ2）※詩や短い物語などの学習の第1時の導入などに活用する
- ・道徳（アクティビティ2・アクティビティ3）

## アクティビティ1「友だちと力を合わせて答えよう」

### ●ねらい

- ・自分と友だちの価値観の一致や、違いを楽しむ。
- ・友だちの回答を否定せず、肯定的で寛容な態度を養う。

### ●主な対象

小学校1～3年生（学級の発達段階に応じて3～5人の班）

### ●用意するもの

- ・ワークシート①（P16）：全員分
- ・筆記用具

### ●所要時間

20分

### ●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
1. 班を作る。  2. ルールを説明する。 ・お題に対して一斉に解答し、点数を獲得していく。 ・回答が全員一致すると3点、全員ばらばらでも3点とし、少人数で一致した場合は無得点とする。  3. 班ごとに、ワークシート①にそって順番に質問を読み、思いついたことを一斉に答える。ワークシート①の①が終わったら獲得点数を確認する。	仲の良い児童だけの班ではなく、あまり接点のない児童も交流できるような班分けにする。  児童同士が肯定的な声掛けをして進めていけるような雰囲気をつくる。 ワークシートの質問内容は、学級の実態に合わせて変更して使用する。
振り返り ワークシート①の② 「おもしろかったことや難しかったことを書きましよう。」	



## ワークシート①

( )年 ( )組 氏名 ( )

① いっせいに答えよう

そろそろ・ばらばら→3点

	しつもん 質 問	てんすう 点数
1	やさしい言葉は？	
2	かわいい色は？	
3	おもしろい人は？	
4	おいしいおかしは？	
5	こわいものは？	
6	かっこいいのりものは？	
7	ふわふわのものは？	
8	かなしい色は？	
9	いちばん大切なものは？	
10	とても美しいものは？	

② ふりかえろう

やってみて、おもしろかったことや、むずかしかったことをかきましょう。

---



---



---



---



---



---



---



---

## アクティビティ2「想像してみよう 比べてみよう」

### ●概要

学校生活においては、同じであることや集団として行動することが美化されることが多い。そのため、自分の意見が人と同じであるかどうかを気にする子どもも多い。しかし、みんな同じ人間ではないので、想像することや考えることが違うはずである。答えが1つでない問いや生活の様々な事象に対して、自分で思考し自分の考えを持てるようになってほしい。

物語を聞いて描く絵は人それぞれであるため、物語のどの部分を切り取って描いてもよい。それもまた、違っていればおもしろい。

### ●ねらい

同じ物語を聞き、その絵を描いて比較することで、違いを楽しむ。さらに、「みんな違ってみんないい」の精神をはぐくむ。

### ●主な対象

小学校1～3年生

### ●用意するもの

- ・紙：1人1枚
- ・色鉛筆：1人1セット
- ・筆記用具

### ●所要時間

25分

### ●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
1. 物語①(P18) を聞く。 「お話をきいて、お話に合う絵を描きましょう。」 2. 絵を描く。 3. グループで絵を比較し意見交換をする。 「絵を見比べて、同じところについて話しましょう。」 「絵を見比べて、違うところについて話しましょう。」	個人で取り組む。 3～4人グループが望ましい。 「どうしてその色にしたの？」など、「どうして～」をキーワードとして活用するように指示する。
ふり返し 「友だちと比べて、思ったことを書きましょう。（言いましょう。）」	違いを楽しむ雰囲気を作る。

## 『物語』①

今日、傘を買ってもらいました。縞模様でとても気に入っています。今日の服装にぴったりの色です。傘を買ってもらった記念に、綺麗な木の前で写真を撮ってもらいました。今度、雨が降ったら使いたいです。すごく楽しみです。

### ●解説

文章中のキーワードをもとに考えられる絵の候補

- ・傘→閉じた傘・開いた傘
- ・縞模様→縦縞・横縞・チェック柄
- ・服装にぴったりの色→同系色・対称色・同じ模様
- ・綺麗な木→新緑・紅葉・綺麗な形・イルミネーション
- ・絵の場面設定→晴れ・雨

## アクティビティ3「プレゼントしよう ぴったりの花束」

### ●概要

大人も子どもも、人を見た目で想像したり判断したりすることがよくある。「体が大きいから力が強そう」、「女の子だからピンクが好きだろう」と。しかし、それらの人についてよく知ると、意外と、体が大きい人はお料理が得意だったり、可愛い女の子は黒が好きだったりする。相手を知ることの大切さを学んでほしい。

この教材は、ワークシートだけでなくタブレットを使用しても行うことも可能である。タブレットを活用することで、花束に色を塗る活動を簡単にすることができる。さらに、色を塗ったり模様を描いたりする活動に比べ、個人の差がでないため、ねらいをピンポイントに捉えた授業ができる。

### ●ねらい

登場人物の性格を知らない場合のプレゼント（花束）と、性格を知った場合のプレゼント（花束）では、色やデザインが変わってくることを実感し、相手を知ることの大切さに気付く。

### ●主な対象

小学校1～3年生

### ●用意するもの

- ・ワークシート②（P20）：全員分
- ・色鉛筆：1人1セット
- ・筆記用具

※タブレットを使用し学習をする際には、CDに保存されている素材（P21見本）をそれぞれのアプリに合わせて活用する。

### ●所要時間

45分

●おすすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
1. 物語②を聞く。 2. 花束に色を塗る。 「女の子にぴったりの花束を作しましょう。」 3. 全体で交流する 「どうしてこの色や模様にしたのですか。」 4. 物語の続き②を読む。 「どうしたのかな？」 5. 登場人物の性格カードを読む。 6. もう一度花束に色を塗る。 「女の子にぴったりの花束を作しましょう。」	後半に時間をかけたいので、短時間で言う。  花束に対して嬉しそうな態度をとらなかった原因を簡単に考える時間を設ける。  全く同じ発問をする。
振り返り 「2つめの花束を作るときに考えた事はなんですか。」	相手の性格を加味して考えた事を実感させる。

『物語』②

あなたは、友だちの女の子の誕生日会に行きます。女の子が喜んでくれるように、誕生日プレゼントと花束を持って行こうと思います。

（続き）

誕生日プレゼントを渡すと、とっても喜んでいました。しかし、花束を渡すとあまり嬉しそうではありません。

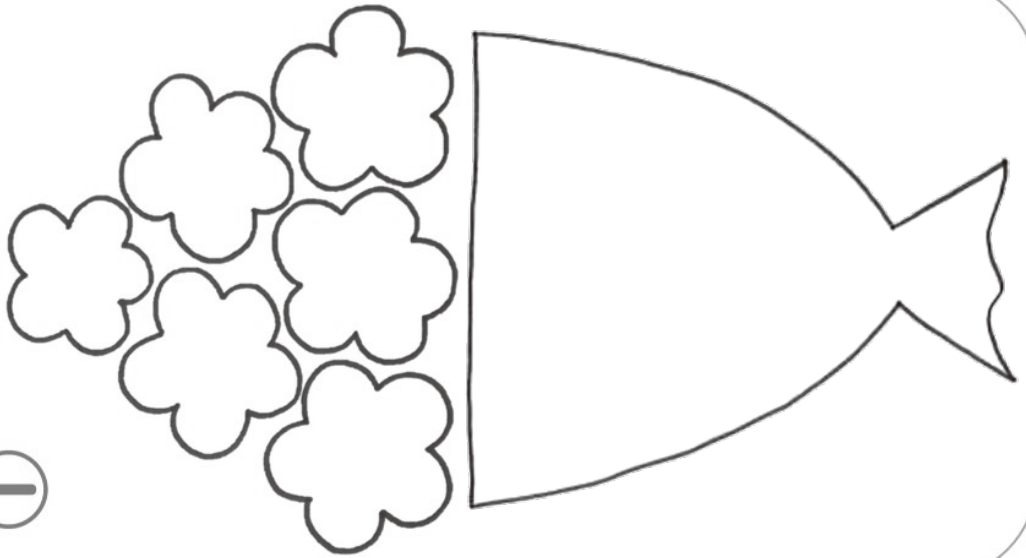
女の子について

- ・ピアノとサッカーを習っている。
- ・星やクローバーが好き。
- ・虫が苦手。
- ・水色とオレンジ色と白色が好き。
- ・算数が得意。
- ・カレーとイチゴが好き。

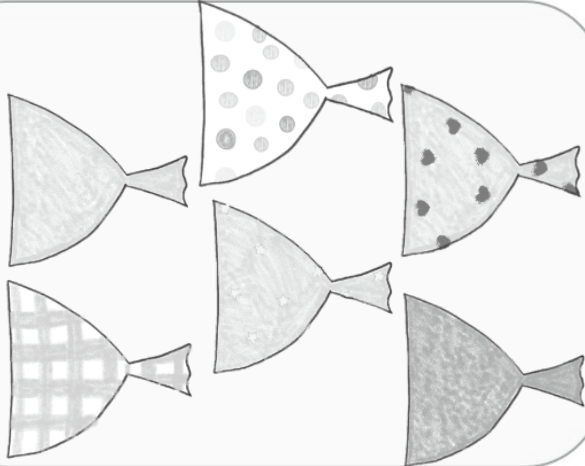
なまえ

はな  
ぴったりの花たばをつくらう

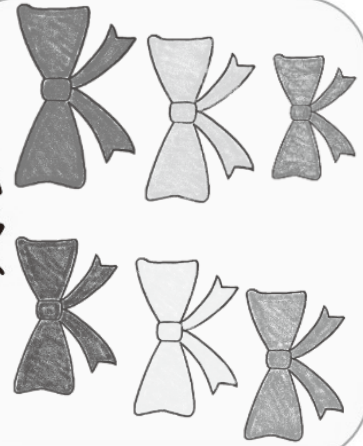
①



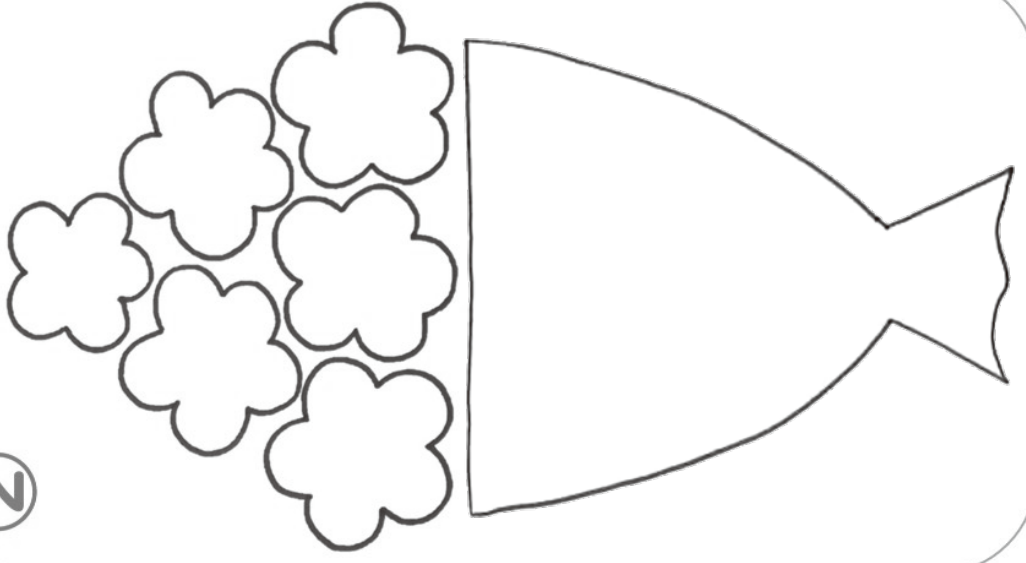
ラッピング



リボン



②



●タブレット学習用素材見本 ※CD内のデータを使用してください。



## アクティビティ4 「どっちもいいね～それぞれのよいところをたくさん見つけよう～」

### ●概要

何事にもメリットとデメリットがある。人は、それらを踏まえて、自分の行動を判断する。そんなとき、自分と違う判断をした相手に対して「その考え方もあるね」と寛容的に認めることのできる人であってほしい。そのためには、1つの事柄に対して両面から見ることのできる力が必要となってくる。身近にある事柄を取り上げ、その事柄について両面から考え、議論することが重要である。授業での話し合い活動や課題解決の過程などの学校生活において活かせるようにしたい。

### ●ねらい

自分の意見だけでなく、反対の立場に立って考える。

### ●主な対象

小学校1～3年生

### ●用意するもの

- ・ワークシート③（P23）：全員分
- ・筆記用具

### ●所要時間

45分

### ●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<p>1. ワークシート③につながるよう本時の学習課題を提示する。 いくつか事例をあげる 「男子のランドセルの色は？」 「黒がよいのかな？ 違う色がよいのかな？」</p> <p>2. 教員は全体に事例を問いかけ、全体で考える。 <b>小学生はテレビを見た方がよい・見ない方がよい</b></p> <p>3. ワークシート③にそって班で考える。 <b>女子の制服はスカートがよい・ズボンがよい</b> <b>食事は箸を使うのがよい・スプーンとフォークがよい</b></p> <p>4. 班での話し合いの内容を全体で共有する。</p>	<p>児童が考えやすいように、議題は身近な事柄を選択する。</p> <p>両方の立場から見たメリットを考える活動であることを確認する。</p> <p>ワークシートの質問内容は、学級の実態に合わせて変更して使用する。</p> <p>班によって違う意見が出ると考えられるため、他の班の意見を聞く時間を設ける。</p>
<p>ふり返り ワークシート③の③、④を使ってふり返る。 「たくさん話し合いをした結果、どちらがよいと思いますか。」 「感想を書きましょう。」</p>	<p>十分に話し合いをした過程を踏まえて判断するように助言する。</p>

**ワークシート③**

( )年 ( )組 氏名 ( )

それぞれの よいところを たくさん 見つけよう

①

女子のせいふくはスカートがよい。	ズボンがよい。

②

しょくじはおはしをつかうのがよい。	スプーンとフォークをつかうのがよい。

③ はなしあいをしてみて どちらがよいとおもいますか。  
よいとおもうほうに まるを つけましょう。

④ かんそうを かきましょう。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



## おわりに

私は「多文化共生」をテーマとした教材は、深い思考を伴うものが多く対象年齢が高いものが多いように感じていた。また、設定が複雑であったり内容が専門的であったりするものがほとんどで、小学校低学年で使用できないことが多かった。そのため、小学校低学年向けに教材を作ろうと考えたが、「多文化共生」を児童にとって分かりやすい形にすることは難しかった。

私は「多文化共生」について学ぶ中で「多文化共生」を「価値観や考え方の異なる人と上手く折り合いをつけて生活すること」と捉えるようにした。そうすると一気に「多文化共生」が身近なものになり、学級の中で活用しやすいテーマとなった。このような身近な課題について思考し、折り合いをつけていく中で、「多文化共生」を目指すにあたっての根本的な考え方を身に付けてほしいと願っている。小学校低学年で培った力を活用して、成長段階に合わせて様々な課題に取り組める人材を育てたい。



# みんなが気持ちよく暮らすために

## はじめに

JICA中国教師国内研修の最初に、『「開発教育」とは何か』という問いを投げかけられた。JICAのパンフレットによると、「開発」とは『十分に食べられなかったり、学校に行けなかったり、病気でも病院に行けなかったり、住んでいるところがとても危険だったり、暴力をふるわれたり自由に意見が言えなかったりすることをなくして、みんなが安心して、自分の能力を十分に発揮しながら満足して暮らせるようにすること』とあった。始めに私が考えていた「開発教育」とは、「開発途上国のことを子どもたちと学び、よりよい社会を創るためにできることを考える教育」だったが、研修の中で他の参加者と議論する中で、考えが変わった。

私なりの最終的な答えは、「相手を尊重して、みんなが気持ちよく、よりよく生きるための教育」である。開発途上国に限らず、日本でも、人はそれぞれ異なる考え方や文化をもっている。しかし、生活の中では、「こちらが正しい、相手が間違っている、相手がおかしい」と強く相手を非難する場面が、たくさんある。今回の研修を通して、違う角度から見たときや、自分がマイノリティとなったときに、その自分の中の「正しさ」は「間違え」に逆転しさえするのではないかと疑い、相手を尊重する態度を育てることが大切なことだと気付いた。

近年特に、学校では、障がいのある児童や海外から帰国した児童、外国人の児童など、様々な事情を抱えた児童が在籍していることが増えている。多様な他者と理解し合って協力し合える人間関係を形成することが喫緊の課題だと感じる。

筆者が担任しているクラスでも、自分とは異なる他者の失敗や過ちを一方向的に非難したり、自分と異なる意見や立場を受け入れようとしなかったりと、自己本位に陥りやすい子どもが多く、そこからトラブルにつながることもよくある。今回の学びのプログラムを通して子どもたちの「相手を大切に、広い心で関わる相互理解と寛容の心情」を育てたい。

## この教材の使い方・参加のルール

この教材では、自分の価値観や考え方に向き合い、参加者同士で交流する活動を通して、自己理解や他者理解を深めたり、自分と異なる考え方や文化に対する寛容な心を育てたりすることをねらいとしている。人それぞれ、育ってきた環境や文化が異なるため、どれが正しくどれが間違っているということはない。活動の中では、相手のことを否定するのではなく、多様な考えがあることに気づき「このような考え方もあるのだな。」と受け入れていくことが大切である。

## 全体のねらい

「相互理解・寛容、多文化共生」

自分の価値観や考え方に向き合い、参加者同士で交流する活動を通して、相手を大切に、広い心で関わる相互理解と寛容の心情と、相手を受け入れる態度を育てる。

## 学習計画（全2時間）

- (1) レッツジャッジ！許される？許されない？
- (2) もしかしてだけど！

## 教科・領域との関係

◎小学校学習指導要領（平成29年度告示）より、

### 道徳

道徳価値項目 1 1 相互理解、寛容

（自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にする）

道徳価値項目 1 3 公正、公平、社会正義

（誰に対しても分け隔てをせず、公正公平な態度で接する）

### 特別活動

特別活動イ よりよい人間関係の形成

（互いのよさを見つけ、違いを尊重し合い、仲良くしたり信頼し合ったりして生活する）

### 外国語活動

知識および技能 （1）イ（イ）日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考えがあることに気付くこと。

### 外国語

学びに向かう力、人間性等 （3）外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

## アクティビティ1 「レッツジャッジ！許される？許されない？」

### ●概要

今回の学習プログラムプラン全体を通して「相手に対して寛容な心を持ち、相手を受け入れる態度を身につけて欲しい」というねらいがある。一方で、世の中には、人権や命に関わる「許されないこと」や「受け入れなくても良いこと」もある。自分が違うと思うことを「違う」と言うことは自分の権利を守ることでもあり、大切なことである。では、寛容になるべき事柄とそうでない事柄の線引きはどこにあるのか。今回のアクティビティでは、様々な事例について、自分は許せるか・許せないかを考え、参加者同士で議論する。この活動を通して、自分の価値観や他者の感じ方に向き合い、多角的に判断する力を育てたい。

### ●ねらい

「戦争・差別・偏見・人権」

許されること、許されないことに分ける活動を通して、世の中には、人権や命に関わる「許されないこと」や「受け入れなくても良いこと」もあることに気付くと共に、自分の価値観や他者の感じ方に向き合い、多角的に判断する力を育てたい。

### ●主な対象

小学校中学年～

### ●用意するもの

- ・筆記用具
- ・ジャッジシート（個人用）（P28）：全員分
- ・ジャッジシート（グループ用）（P29）：グループ分

### ●所要時間

45分

## ●おすすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<p>1. 一人一枚ジャッジシートを配り、シートのお題に対して、それぞれ「許される事例」か「許されない事例」か考え、○△×で記入する。判断した理由も書く。</p> <p>2. 小グループに分かれる。グループに一枚グループ意見集約シートを配る。グループで交流し、グループでのジャッジをする。グループ活動シートに書き込む。</p> <p>3. 全体で共有する。</p> <p>4. 「話し合いの後」のところに最終的な自分の考えと、考えが変わった理由を書く。</p> <p>5. 教師が「用語の解説」にあることを補足する。差別と偏見になっていること、人権侵害になっていることは「許されるべきでない」ということを確認する。</p>	<p>相手の考えを否定しないという約束を予めしておく。多様な考えを認めていく。</p> <p>時間が余れば全体やグループで共有しても良い。</p> <p>子どもの発言や疑問を基に、実態に合わせて話をする。</p>
<p>2. ふり返り</p>	

## ●用語の解説

### 「外国人立入禁止」

実際に大阪であった例。宝石店に入店した客がブラジル人と分かると、店主が「この店は外国人立ち入り禁止だ」と言い、店から出て行くよう要求した。問答を繰り返しているうちに、店主は、店内に張ってあった「外国人の入店は固くお断りします」等と書かれた紙を指した。また、「出店荒らしに用心！」と題した警察署作成のピラを外して顔に近づけ、「店から出なければ警察を呼ぶ」と言い、電話をかけ警察を呼んだ、という事例。裁判になり、「街頭で店舗を構えている以上、店は道を歩く顧客一般に開放されており、経営者は、顧客対象を限定したり、入店制限をしたりしてはならない。」とされた。

この事例を扱うとき、そもそも“外国人”とは、どのような人なのか。日本で生まれ育っていても外見が違ったら“外国人”として断られるのかなどを子どもたちに問いかけてもよいかもしれない。

### 「学校に行けない子ども」

学校に行きたくてもいけない子ども達は、約 6100 万人いるとされている。(UNESCO 『グローバルモニタリングレポート 2017/8』、UNFPA 『世界人口白書 2019』) 世界の中で学校に行けない子ども達が特に多いのはアジア、アフリカ、南アメリカなどにある「開発途上国」である。学校に行けない理由としては、飲み水や栄養の不足で 5 歳までに命を落としたり (5 歳までに命を落とす子どもは 1 年間に約 5,322,000 人とされている) 働いたり、兄弟の面倒を見ないといけなかったり、戦争などの社会情勢によって困難だったり、様々である。「JICA 地球ひろば『先生・生徒のお役立ちサイトー世界の課題を考える写真』」(<https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/material/practice.html>) には、働く子ども達の写真がある。

### 「戦争中に働く子ども」

1945 年 3 月、国民学校初等科をのぞく学校授業が 1 年間停止され学徒勤労動員で約 311 万人が動員された。また、労働不足を補うため、女子挺身隊といわれた女性達の動員もあった。女子挺身隊は、終戦時には、約 47 万人にのぼったとされている。

広島の大久野島でも終戦時には、女学生がごんにゃくのりを使って紙を貼り合わせ、爆弾をつけて飛ばすための風船を作っていた。作られた風船爆弾 9300 個は九十九里浜から飛ばされたが、当時の敵国についたのは 361 個ほどと言われている。

# ジャッジシート

名前 ( )

ゆるされる？  
ゆるされない？

①～⑤のことが「ゆるされるべき」と思えば○  
「ゆるされるべきでない」と思えば×  
分からなければ△ を書きましょう。  
理由も書きましょう。

## ジャッジシート (個人用)

	最初の 考え ○△×	理由	最終的な 考え ○△×	最初の考えと変わった理由に、 考えが変わった理由を書きましょう。
① あるクラスには、ドッジボールをしてあそぶとき、運動が苦手な人はさんかしてはいけないというきまりがある。 やりたい人も「下手くそだからやったらダメ」とことわられている。				
② Aさんは言い返さないからからかう。Bさんはからかうとおこって言い返すからからかわない。				
③ 外国人は日本のことが分からないから悪いことをするという理由で、外国人立入りんにしている店がある。				
④ Cさんは、小学校に通いたいのに家の手伝いをしないといけないので通えない。				
⑤ せんそう中は、子どもは学校に行かずにぶ器をつくる。				

# ジャッジシート (グループ用)

## ジャッジシート 【グループ用】

グループ ( )

グループのメンバーで話し合い、

- ①～⑤のことが「ゆるされるべき」と思えば○
- 「ゆるされるべきでない」と思えば×
- 分からなければ△ を書きましょう。
- 理由も書きましょう。

ゆるされる？  
ゆるされない？

	グループの 考え ○△×	理由
① あるクラスには、ドッジボールをしてあそぶとき、運動が苦手な人はさんかしてはいけないというきまりがある。 やりたい人も「下手くそだからやったらダメ」とことわられている。		
② Aさんは言い返さないからからかう。Bさんはからかうとおこって言い返すからからかわない。		
③ 外国人は日本のことが分からないから悪いことをするという理由で、外国人立入禁止にしてしている店がある。		
④ Cさんは、小学校に通いたいのに家の手伝いをしないといけないので通えない。		
⑤ せんそう中は、子どもは学校に行かずにぶ器をつくる。		

## アクティビティ2 「もしかしてだけど！」

### ●概要

近年特に、学校では、障がいのある児童や海外から帰国した児童、外国人の児童など、様々な事情を抱えた児童が在籍していることが増えている。多様な他者と理解し合って協力し合える人間関係を形成することがより求められることのように感じる。ただ、自分とは異なる他者の失敗や過ちを一方向的に非難したり、自分と異なる意見や立場を受け入れようとしなかったりと、自己本位に陥りやすく、そこから起こるトラブルも少なくない。アクティビティの中で、相手がある行動をとったときの背景にあることに想像を巡らせることを通して、相手を大切に、広い心で関わる相互理解と寛容の心情を育てたい。

### ●ねらい

「相互理解・寛容・多文化共生」

互いの状況を考えて相手を大切にされた寛容な態度を育てる

### ●主な対象

小学校中学年～

### ●用意するもの

- ・状況カード（P32～34）：グループ1セット（予め切り離して谷折り、山折りにしておく）
- ・あるかもチップ（P35）：1人1セット（予め切り離した状態で24枚以上）
- ・もしかしてカード（P36）：1人1枚（予め切り離しておく）

### ●所要時間

45分

### ●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<p>1. グループごとに行う。指示通りに折られた「状況カード」を白面を上にして中央に重ねて置く。順番を決め、最初の人から状況カードを引き、状況を読み上げる。（カードはこの時点はそれ以上開かず伏せておく。）</p> <p>2. 他の参加者は、どうして事例に出てくる人がこのような行動をとるのかの理由や背景を考える。思いついた参加者から「もしかして！」と言いながら、「もしかしてカード」を中央に出し、考えられる状況を言う。</p>	<p>予め3～5人のグループに分かれておく。</p> <p>状況カードはクラスの実態に合わせて減らすことも可能である。実際に境遇が当てはまる児童がいる場合はそのカードを抜くなどの配慮をする。また、状況カードの名前がクラスの児童と重なる場合は変更して使うようにする。</p> <p>「もしかしてカード」、「あるかもチップ」はいずれも切り離した状態で各自に1セットずつ配布しておく。</p>

<p>3. 他の参加者は納得できると思ったら、「あるかも〜！」とい いながら、「あるかもチップ」を自分の手元から1枚、「もし かしてカード」の上に置く。</p> <p>4. 思いついた人が皆「もしかして…」を言い終わったら、「状 況カード」を読んだ人が「だってね」から先を読み上げる。</p> <p>5. 置かれたチップはグループのチップ置き場にまとめて置く。 「もしかしてカード」は各自がそれぞれ回収する。一度開い た状況カードはもう使わないので混ざらないように隅に置 く。</p> <p>6. 次の順番の人が「状況カード」を引き、2～6を繰り返す。</p> <p>7. 各グループの「あるかもチップ」の数を共有するその後、 各グループでどんな意見が出たか全体で共有する。 (時間が余れば、「だってね」以降の内容が納得できる内容だっ たか全体で話し合ってみてもよい。)</p>	<p>相手の考えを否定しないという約束 を予めしておく。多様な考えを認め ていく。</p> <p>手元のチップが少なくなることを嫌 がってなかなかチップが出せない子 どもがいると考えられる。チップを 出した子どもに「そうか、気持ちが 分かるんだね」と肯定的な声かけを して互いを認め合える雰囲気を作 る。</p> <p>あくまでも筆者が考えた答えである ため、正誤にこだわらないように声 をかける。</p> <p>あるかもチップをたくさん出し合っ ていたグループを取り上げて共感す る大切さを伝えても良い。</p>
<p>ふり返り</p>	

●解説

手食文化について

手食文化圏の人々は世界に約24億人いるとされている。箸食文化圏の人々、ナイフ・フォーク・スプーン食文化圏の人々はそれぞれ18億人とされ、世界の約40%の人が手で食べている。

(「食の文化を知る事典」岡田哲：東京堂出版、「箸の本」本田総一郎：柴田書店)

イスラム教について

国や地域、人によってイスラムの解釈は多様である。同じイスラム教徒でも、礼拝や断食、食べるもの、ヒジャーブなどには違いがある。

イスラムの概要を紹介した動画(JICA)(<https://youtu.be/akQJ-arKHAK>)「【イスラム①】イスラムの概要」を視聴しても良い。



【状況カード】

<p>みおりさんがいつもわたしをにらんでくる。言いたいことがあるならいってよね。</p>		<p>だってね、仲良くなりたんだけど、いつもだれかといるから話しかけにくかったんだ。</p>
<p>さとしさんが、チャイムがなくても教室に帰ってこない。さぼっているんじゃないの。</p>		<p>だってね、今朝からお腹が痛いからトイレにいったんだ。</p>
<p>くみさんが遊ぼうっていったのに、約束の時間になってもこない。ひどい。</p>		<p>だってね、家の鍵がなくなってさがしていたの。</p>
<p>けんさんが今朝からイライラしていて、話しかけにくい。ぼくまでイライラしてくるよ。</p>		<p>だってね、朝お母さんに宿題をしていないことをすごくすごく怒られて気持ちがしずんでいるから。</p>
<p>さとりさんが毎回遊びにさそっても「ごめんよ」と断られる。ぼくのと嫌いなのかな。</p>		<p>だってね、ほぼ毎日習い事があるし、家も遠いから遊びたいんだけど遊べないんだ。</p>

山おり

谷おり

<p>とおるさんが家で 遊ぼうって誘って もいつもこない。 なんで。</p>		<p>だってね、ぼくだけ ゲームをもっていない から遊びに入れない し、いても迷惑かなっ て思うんだ。</p>
<p>たけしさんがクラスで 遊ぶときいつもルール を守らない。いっしょ に遊んでいてつまらな い。</p>		<p>だってね、遊びの ルールが本当はよ く分からないん だ。</p>
<p>けんごさんが宿題 をやってきていな い。やってこな きゃだめじゃん。</p>		<p>だってね、算数が苦手 で人一倍時間がかかる んだ。学校で先生に聞 いてやろうと思ったん だよ。</p>
<p>となりの町にカラオケし にいこうってさそったの に、かなさんが「ム リ」って。わたしは遊 びたくないって事なの、 きずついた！</p>		<p>だってね、おこづかいが 少なくて遊びにお金をか けられないし、親が遅く まで働いていて送りむか えをたのめないから行き たいけどいけないんだ。</p>
<p>サリーさんは給食 を手で食べる。お ぎょうぎが悪いよ うに見えるよ。</p>		<p>だってね、私の両親はイ ンド人で、家では手で食 べるの。インドでは手で 食べるのがマナーなんだ よ。</p>



<p>あいさんは、いつも もうなずいてばかり りで話<small>はなし</small>に入<small>はい</small>ってこ ない。つまらな い。</p>		<p>だってね正直<small>しょうじき</small>みんなが話<small>はな</small> している悪口<small>わるぐち</small>は聞いてい ていい気持ち<small>きもち</small>がしないん だ。もっと楽<small>たの</small>しい話<small>はなし</small>がし たい。</p>
<p>ナディアさんは、 豚肉<small>ぶたにく</small>の料理<small>りょうり</small>を残<small>のこ</small> す。もったいな い。</p>		<p>だってね、私<small>わたし</small>のお母<small>かあ</small>さんはマ レーシア人<small>じん</small>で、私<small>わたし</small>たちの宗教<small>しゅうきょう</small> では豚肉<small>ぶたにく</small>を食<small>た</small>べられないの。 お酒<small>さけ</small>も飲<small>の</small>まないよ。私<small>わたし</small>たちが 食<small>た</small>べられる食<small>た</small>べ物をハラル フード<small>もの</small>とって日本<small>にほん</small>でも広 まってきたよ。</p>

山おり

谷おり

【あるかもチップ】 ※予め切り離し、児童数×24枚以上準備しておく

ある かも！	ある かも！	ある かも！	ある かも！
ある かも！	ある かも！	ある かも！	ある かも！
ある かも！	ある かも！	ある かも！	ある かも！
ある かも！	ある かも！	ある かも！	ある かも！
ある かも！	ある かも！	ある かも！	ある かも！
ある かも！	ある かも！	ある かも！	ある かも！

【もしかしてカード】 ※1人1枚配布できるように予め切り離しておく



## おわりに

私は大学の在学中に西日本豪雨災害を経験し、被災地支援に携わった。被災した方々は住み慣れた町の景色が変わってしまったり、仮設住宅への入居などで慣れたコミュニティが変わったり、PTSDなどに苦しんだり、たくさんの課題に直面すると分かった。災害支援に関わる中で、テレビ番組の中で東日本大震災で被災された方の言葉に出会った。「どんな状況においてもとにかく生きなきゃいけない。どうせ生きるんだったら気持ちよく生きたい。気持ちよく生きるにはどうしたらいいかを常に常にそのときそのときを考えていて、納得すると笑顔になれるし、自分が笑顔になれると人にもやさしくなれる。人の笑顔をみるとますます元気になれるし。そういうことでがんばっていきましょうということをいろんな人たちに、気持ちよく生きていきたいねというのをいろんな人に伝えたい」（NHK番組 僕に、できること-見つめ続けた震災10年-）

課題も不安も悲しみもたくさんあると思うが、みんなで気持ちよく生きる、という思いが強く胸に響いた。だから、私は「開発教育」とは、世界の人が、更に言えば生き物も、自然も、全てが「みんなで気持ちよく生きる方法を考える教育」ではないかと考える。つい相手の非を追求して自分を正当化してしまうのも人間だが、相手の立場を想像し、共感できるのも人間だと思う。それが出来たらもっとみんなが生きやすい世界になると思う。今回つくった学習プログラムが未来を担う子どもたちの「みんなで気持ちよく生きる力」を少しでも育てることが出来たら嬉しい。

## 参考・引用資料

- ・ JICA 資料「学校に行きたい」  
([https://www.jica.go.jp/hiroba/program/practice/education/materials/jhqv8b000006cumh-att/pamphlet\\_school.pdf](https://www.jica.go.jp/hiroba/program/practice/education/materials/jhqv8b000006cumh-att/pamphlet_school.pdf))
- ・ 公益財団法人 愛知県国際交流協会 HP 閲覧日 2022年1月  
(<http://www2.aia.pref.aichi.jp/koryu/j/kyouzai/index2.html>)
- ・ JICA 「【イスラム①】イスラムの概要」(<https://youtu.be/akQJ-arKHAK>)
- ・ 大阪府 HP 「事例から考える差別」閲覧日 2022年1月 (guideline-5\_cases.pdf (osaka.lg.jp))
- ・ 「山川 詳説日本史図録（第6版）」山川出版 2014、野澤伸平

## これからの「多文化共生教育」 ～学校の皆さんへ伝えたいこと～


芝 由紀子

地域や学校に外国出身者が増えると共に、多文化共生活動に関心を持ち、地域探求学習などを通じて、自らアクションを起こす中高生が増えてきています。外国人住民のサポート活動など、多文化共生活動をする私にとって、これは本当に嬉しいことです。ですが実は同時に、純粹に「手伝いたい」「助けたい」と思いを言葉にする中高生に戸惑いと危うさも感じています。なぜなら、ほとんどの中高生が「外国人が困っている」「外国人の困りごとが知りたい」を口にするためです。そしてこれは中高生だけではなく、地域の大人や学校関係者からよくきく言葉でもあります。では実際、みなさんは「困っている外国人」を目にしたことはあるでしょうか。メディアなどの影響から、全ての外国人を一括りにし、「外国人＝困っている」というイメージを勝手に作ってしまっていないでしょうか。

ある日学校に外国からの転校生が来たとします。言葉が十分に理解できず、学校生活について何も知らない外国からの転校生に対し、同じクラスの児童生徒や担任の先生はどのような対応をしましょうか。その転校生は色々な場面で（きっとほぼ全ての場面で）「困り感」を抱え、誰かの手伝いが必要になることでしょうか。だからといって外国人生徒＝いつも困っている人になることはないはずです。担任の先生は外国人生徒を含めたクラスづくりに多大な努力をされることと思えますし、クラスの生徒たちは日本の他地域からの転校生と同様、外国からの転校生を同じクラスの「仲間」として受け入れ、対等に接するのではないのでしょうか。言葉が十分に通じない中でも、お互いに教えあい、助け合う場面が多々想像されます。

これが地域の外国人住民に対してだと、すぐに「外国人が困っている」「困っている外国人の力になりたい」と一方的な視点になってしまうのはなぜでしょうか。（外国で外国人として住む以上困りごとはつきものですが、初めて会う中高生に「困っていることはなんですか」と聞かれ、戸惑う外国人住民が少なくないということをお伝えしておきます。）日々の生活の中で、人は誰もが助ける側になり、助けられる側になります。毎日のように人を勇気づけたり、人から勇気づけられたりもします。それは決して一方的なものではなく、当然、日本人や外国人の区別もないはずです。

私は中高生の皆さんには、まずは「学校」という自分達が主役の場から地域へ飛び出し、日本語教室などの多文化共生活動の現場を自分達の見目で見て、感じてほしいと思います。そして同じ地域住民として挨拶をかわし、対話を重ねる中から「困りごと」を知り、「手伝いたい」という気持ちが自然に生まれたら素敵だと感じています。地域探求や課題解決型の学習は、ただ「調べる・聞く」ではなく、地域と共に、当事者と共に学び考えてこそ価値があると思うのです。地域の大人や外国人住民との関係性の中から、新たな学びを皆がしていく。そうすれば探求学習が中高生にとっ



での学びで終わり、地域にとって負担感が残ることもきっとありません。現場の先生方には是非生徒たちの背中を押し、地域に飛び出す声掛けをして頂けたらと思います。そしてその時には「外国人と日本人ではなく、人と人としてつながっておいで！」と言って頂けるととても嬉しく思います。

国際理解教育は、外国について、世界について知る機会となります。視野が広がり、豊かさが増す素晴らしい学びの時間だと言えるでしょう。ただ残念なのは、大抵の場合、そこに「人」や「相手」はおらず、双方向の学びにはなっていないということです。「相手」がいたとしても、その話の中心は「人」ではなく「国」や「文化」が多いと思います。これからの「多文化共生教育」はどちらか一方の学び、一方からのアプローチに留まらず、双方向に視点をおいたものであって欲しいと切に願います。「地域の外国人住民」に目が向き始めたこれからの若い中高生世代が共に学び、一緒に活動する視点を持ち、地域で活躍してくれたらこんなに嬉しいことはありません。彼らの姿は、私たち大人に間違いなく活動への力と希望を与え、明るい未来を見せてくれると思います。

#### 【プロフィール】

芝 由紀子（しば ゆきこ）

（一社）ダイバーシティうんなんtoiro代表理事

オーストラリアや韓国で日本語教師として働いた後、2012年に韓国人の夫が国際交流員として採用されたことをきっかけに島根県雲南市に移住。2013年に夫婦で市民団体を立ち上げ、外国人住民との地域づくりに取り組む。2018年度より雲南市から多文化共生事業と日本語指導支援業務を受託し、外国人住民の生活サポート等、様々な活動を行う。島根県外国人地域サポーター、雲南市社会教育委員。





# 持続可能な地域をつくるには どうしていけばいいのだろうか

## はじめに

2030年までに達成する目標（SDGs）を最近テレビでも見かけるようになった。また、小学校の算数の教科書や中学校の英語・公民の教科書でも見るようになったSDGsを達成できるようにするためには、世界・国で考えるだけでなく（Think Globally）、地域・個人も主体的に行動していく必要がある（Act Locally）。また、2030年以降も私たちの生活は続いていく。2030年以降の私たちの世界・国・地域・個人の社会や生活はどのようになっていくのだろうか…。

以下のワーク『持続可能な町づくりを考える』『自分たちの町の30年後の将来は…?』を通じて、私たちに身近な「地域」において、どのように持続可能な地域づくりをしていくべきか考え、持続可能な社会の形成者としての意識を高めてもらいたい。

## アクティビティの解説

この教材はSDGsの17の目標や地方公共団体でのSDGsの達成の難しさについて学んだ後、地域の地域ではどのような活動ができそうかを考え、SDGsの達成がなされた、現在から30年後の未来を想像し、どうなっていて欲しいか・どうなっていくべきかを考えていくアクティビティである。

## 全体のねらい

SDGsの達成と地域の運営の面白さ・難しさを体験し、自分の地域の持続可能な未来を考える。

## 学習計画

- (1) 持続可能な町づくりを考える（2時間）
  1. まちの施設でSDGsを達成しよう！
  2. もしも、極貧タウン・工業タウンが隣接していたら？！
- (2) 自分たちの町の30年後の将来は…?（2～3時間）

## 教科・領域との関係

社会科（SDGs・地方自治など）、総合的な学習の時間、特別活動など

## アクティビティ1「まちの施設でSDGsを達成しよう！」

### ●概要

まちの施設の役割、施設で達成できるSDGsの目標、施設によるトレード・オフについて考える。

### ●ねらい

まちの施設でどのSDGsの目標を達成できるか、逆にトレード・オフになる施設はあるか考える。

### ●主な対象

中学生～高校生

## ●用意するもの

- ・筆記用具
- ・ワークシート①（P42～43）：全員分
- ・タウンシート（P44～45）：班数分
- ・はさみ、のり：班数分
- ・ワークシート②（P46）：全員分
- ・ふり返しシート（P47）：全員分

## ●所要時間

45～50分

## ●用語の解説

シナジー：1つの課題を解決すると、他の課題も解決することができること。相乗効果。

トレード・オフ：1つの課題を解決すると、他の課題がさらに解決から遠ざかること。

（高木 超『まちの未来を描く！自治体のSDGs』2021年・学陽書房より抜粋・参考）

## ●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
1. SDGsの目標を達成できる施設は何でしょうか？ （1）それぞれの施設と関係する目標を線で結ぶ。 （2）目標ごとに達成するための施設を書き出す。 班で相談してみましょう。	ワークシート①の表を使いながら、17の目標を確認する。生徒の実情に応じてワークシート①の（1）（2）を選んで使用する。 （1）SDGs初心者 （2）SDGs既修者
2. 班ごとにSDGsの中から目標を3つ選び、タウンシートに記入する。目標を達成した町を想定し、「施設・土地利用カード」から絶対に必要な施設・土地利用を6つ選び、タウンシートを完成させよう。 ※自分たちで施設・土地利用カードを追加・制作してもよい。	タウンシートに必要な施設・土地利用カードを相談してのりで貼っていく。必要な施設がない場合は、白紙の枠に手書きして貼る。
3. 班ごとに完成したタウンシートを発表する。	選んだ3つのSDGsの目標をどの施設で、どう達成するか説明していく。
4. 班ごとに想定した町で、「3つ以外で達成された他のSDGsの目標（シナジー）」と「達成が遠ざかったSDGsの目標（トレード・オフ）」は、何か考えよう。	ワークシート②を配布して、「3つ以外で達成された他のSDGsの目標」と「達成が遠ざかったSDGsの目標」について、例を参考に具体的に考えていく。
5. 班ごとに発表する	
6. ふり返しシートを記入する。	「公助」「自助」「共助」の視点や他の自治体と協力をするという視点などが導きたい。全体に感想を共有してもよい。

# ワークシート① (1)

1. 「小・中学校」「市町村役所」「病院」「公園」「ごみ焼却施設」は、SDGsの目標のうち、どれを達成できるでしょうか？（出典：SDGs 副教材 私たちがつくる持続可能な世界～SDGs をナビにして～）

※それぞれの施設から複数線を結ぶのは可。


<p>小・中学校</p>	<p>1 貧困をなくそう</p> <p>あらゆる場所のあらゆる形態の<b>貧困</b>を終わらせよう</p>
	<p>2 飢餓をゼロに</p> <p><b>飢餓</b>を終わらせ、全ての人が一年を通して<b>栄養</b>のある十分な食料を確保できるようにし、持続可能な農業を促進しよう</p>
	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p> <p>あらゆる年齢の全ての人々の<b>健康的</b>な生活を確保し、<b>福祉</b>を促進しよう</p>
	<p>4 質の高い教育をみんなに</p> <p>全ての人が受けられる公正で質の高い<b>教育</b>の完全普及を達成し、生涯にわたって<b>学習</b>できる機会を増やそう</p>
	<p>5 ジェンダー平等を實現しよう</p> <p><b>男女平等</b>を達成し、全ての女性及び女兒の能力の可能性を伸ばそう</p>
<p>市町村役所</p>	<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p> <p>全ての人が、<b>安全な水とトイレ</b>を利用できるようにし、衛生環境を改善し、ずっと管理していけるようにしよう</p>
	<p>7 再生可能エネルギーを普及させよう</p> <p>全ての人が、<b>安く</b>安定した持続可能な近代的<b>エネルギー</b>を利用できるようにしよう</p>
<p>病院</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p> <p>誰も取り残さずに持続可能な<b>経済成長</b>を促進し、全ての人が生産的で働きがいのある<b>人間らしい仕事</b>に就くことができるようにしよう</p>
	<p>9 産業と雇用創出を促進しよう</p> <p><b>災害に強いインフラ</b>を作り、持続可能な形で産業を発展させ<b>イノベーション</b>を推進していこう</p>
<p>公園</p>	<p>10 人や国の不平等をなくそう</p> <p>国内及び国家間の<b>不平等</b>を見直そう</p>
	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p> <p>安全で<b>災害に強く</b>、持続可能な<b>都市及び居住環境</b>を実現しよう</p>
<p>ごみ焼却施設</p>	<p>12 つくる責任 つかう責任</p> <p>持続可能な方法で<b>生産</b>し、<b>消費</b>する取り組みを進めていこう</p>
	<p>13 気候変動に具体的な対策を</p> <p><b>気候変動</b>及びその影響を軽減するための緊急対策を講じよう</p>
	<p>14 海の豊かさを守ろう</p> <p>持続可能な開発のため<b>海洋資源</b>を保全し、持続可能な形で利用しよう</p>
	<p>15 陸の豊かさも守ろう</p> <p><b>陸上の生態系</b>や<b>森林の保護・回復</b>と持続可能な利用を推進し、<b>砂漠化と土地の劣化</b>に対処し、<b>生物多様性の損失</b>を阻止しよう</p>
	<p>16 平和と正義をすべての人に</p> <p>持続可能な開発のための<b>平和的</b>で誰も置き去りにしない<b>社会</b>を促進し、全ての人が<b>法や制度</b>で守られる社会を構築しよう</p>
	<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p> <p>目標の達成のために必要な手段を強化し、持続可能な開発にむけて<b>世界のみんな</b>で協力しよう</p>

## ワークシート① (2)

1. SDGsを達成するために必要な町の施設は何があるでしょう？

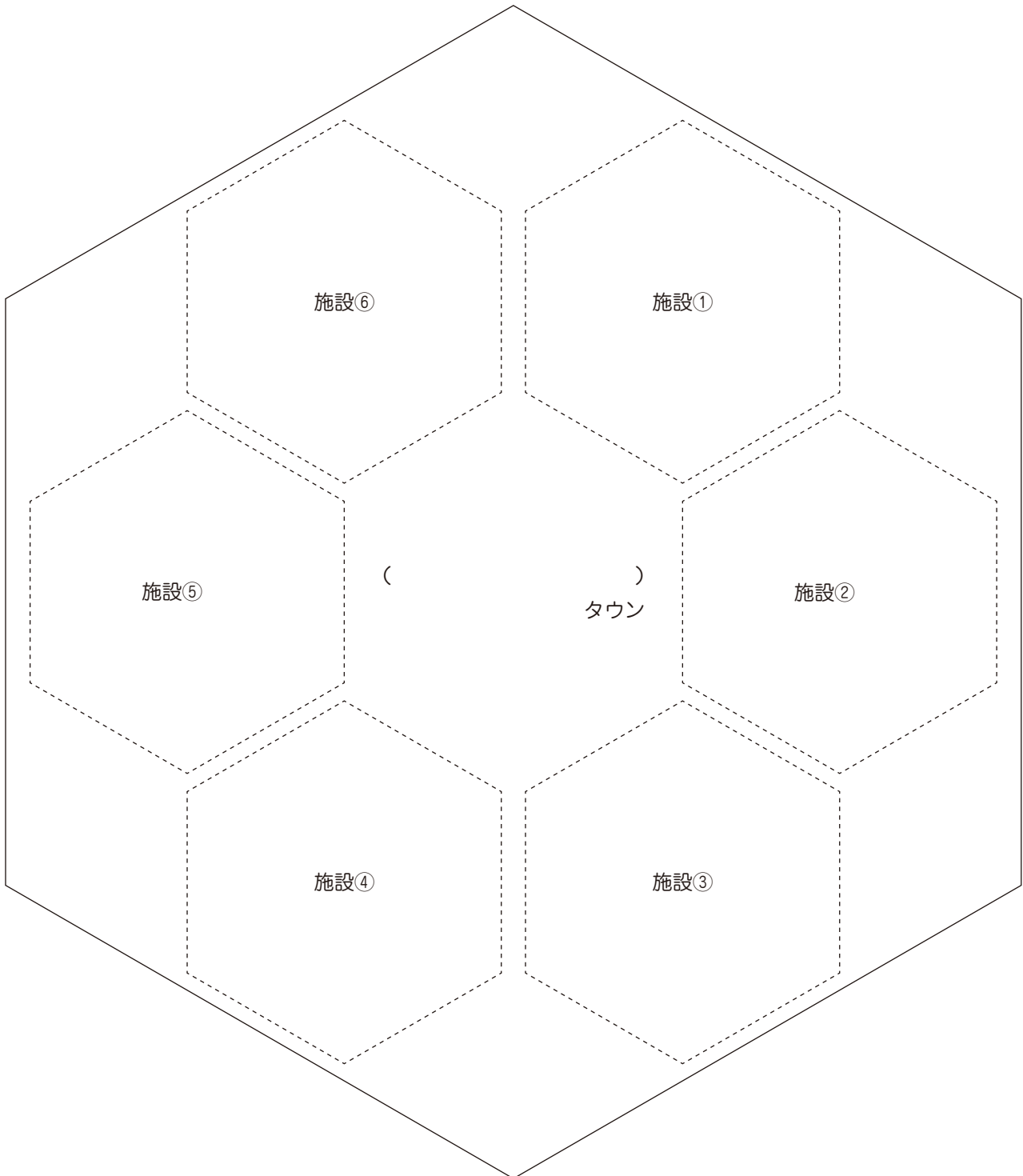
(出典：SDGs 副教材 私たちがつくる持続可能な世界～SDGs をナビにして～)

複数回答可

<p>1 貧困をなくそう</p> 	<p>あらゆる場所のあらゆる形態の<b>貧困</b>を終わらせよう</p>	
<p>2 飢餓をゼロに</p> 	<p>飢餓を終わらせ、全ての人が一年を通して<b>栄養</b>のある十分な食料を確保できるようにし、持続可能な農業を促進しよう</p>	
<p>3 すべての人に健康と福祉を</p> 	<p>あらゆる年齢の全ての人の<b>健康的な</b>生活を確保し、<b>福祉</b>を促進しよう</p>	
<p>4 質の高い教育をみんなに</p> 	<p>全ての人が受けられる公正で質の高い<b>教育</b>の完全普及を達成し、生涯にわたって<b>学習</b>できる機会を増やそう</p>	(例) 小・中学校
<p>5 ジェンダー平等を實現しよう</p> 	<p><b>男女平等</b>を達成し、全ての女性及び女兒の能力の可能性を伸ばそう</p>	
<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p> 	<p>全ての人が、安全な<b>水</b>と<b>トイレ</b>を利用できるようにし、衛生環境を改善し、ずっと管理していけるようにしよう</p>	
<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> 	<p>全ての人が、安くて安定した持続可能な近代的<b>エネルギー</b>を利用できるようにしよう</p>	
<p>8 働きがいも経済成長も</p> 	<p>誰も取り残さないで持続可能な<b>経済成長</b>を促進し、全ての人が生産的で働きがいのある<b>人間らしい仕事</b>に就くことができるようにしよう</p>	
<p>9 産業と雇用創出を促そう</p> 	<p><b>災害に強いインフラ</b>を作り、持続可能な形で産業を発展させ<b>イノベーション</b>を推進していこう</p>	
<p>10 人や国の不平等をなくそう</p> 	<p>国内及び国家間の<b>不平等</b>を見直そう</p>	
<p>11 住み続けられるまちづくりを</p> 	<p>安全で<b>災害に強く</b>、持続可能な<b>都市</b>及び<b>居住環境</b>を実現しよう</p>	
<p>12 つくる責任 つかう責任</p> 	<p>持続可能な方法で<b>生産</b>し、<b>消費</b>する取り組みを進めていこう</p>	
<p>13 気候変動に具体的な対策を</p> 	<p><b>気候変動</b>及びその影響を軽減するための緊急対策を講じよう</p>	
<p>14 海の豊かさを守ろう</p> 	<p>持続可能な開発のため<b>海洋資源</b>を保全し、持続可能な形で利用しよう</p>	
<p>15 陸の豊かさも守ろう</p> 	<p><b>陸上の生態系</b>や<b>森林</b>の<b>保護・回復</b>と持続可能な利用を推進し、<b>砂漠化</b>と<b>土地の劣化</b>に対処し、<b>生物多様性</b>の損失を阻止しよう</p>	
<p>16 平和と公正をすべての人に</p> 	<p>持続可能な開発のための<b>平和的</b>で誰も置き去りにしない<b>社会</b>を促進し、全ての人が<b>法</b>や<b>制度</b>で守られる<b>社会</b>を構築しよう</p>	
<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p> 	<p>目標の達成のために必要な手段を強化し、持続可能な開発にむけて<b>世界</b>の<b>みんな</b>で<b>協力</b>しよう</p>	

## タウンシート

達成するSDGsの目標（3つ）



施設・土地利用カード（切り離して使用する）



## ワークシート②

班ごとに想定した町で、SDGsの目標の達成について考えよう。

・出来上がったタウンシートで上の3つ以外のSDGsの目標で達成できそうな目標は何か？

(例) 交通渋滞の緩和のためにバイパスを建設(⑨)したら、交通の便が良くなり、居住環境がよくなった(⑪)

出来上がったタウンシートで達成から遠ざかったSDGsの目標は何か？

(例) 山の斜面に太陽光パネルを設置(⑦)したら、土地が脆弱になり土砂崩れが起きた(⑪⑮)

## ふり返りシート

( )年 ( )組 氏名( )

- 今回のアクティビティでは、市町村の立場からSDGsの達成を考えた。他のグループの意見を聞いた上でSDGsの目標の中で、どちらも達成しようとするのが難しい目標の組み合わせがあったか？

- 地方公共団体だけでSDGsの目標を達成しようと思うと、財源や施設などの課題が多い場合がある。どのようにすれば、すべてのSDGsの達成ができるだろうか？

- 感想



## ●資料・解説

### インターリンゲージ

「インターリンゲージ」とは、複数のモノ・コトが相互につながっていることを表しています。一見すると、分野ごとに独立して見えるSDGsのゴールやターゲットも互いにつながっています。つまり、あなたが一つのターゲットに関する行動を起こしたならば、ほかのゴールやターゲットにも影響が及ぶ可能性があるのです。

複数の要素が関係しあっているということは、ひとつを解決するとほかの課題も解決するかもしれませんが、逆に他の課題がさらに解決から遠ざかるかもしれません。前者は相乗効果（シナジー）、後者はトレードオフと表現されます。

（例）

行動： 新たに道路を建設してインフラを整備すること

⇒9.1：経済発展や人間の福祉を支援するインフラの開発

#### 相乗効果（シナジー）

→道路の完成による公共交通機関の開通

⇒11.2：すべての人々に安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する

→金融機関の支店の開設による商業の振興

⇒8.3：金融サービスへのアクセス改善などを通じて中小零細企業の設立や成長を推奨する

#### トレードオフ

→道路建設のための森林開拓

⇒15.2：森林減少の阻止

→森林減少に伴う治水機能の減退

⇒11.5：水関連災害などの災害による死者や被害者数の大幅な削減

※SDGsを地域で考えていく際に、SDGsの基本知識の解説に加えて、どのような地域での事例があるかを紹介してくれています。参考までに。

（高木 超『まちの未来を描く！自治体のSDGs』2021年・学陽書房、P52、53より抜粋）

## アクティビティ2 「もしも、格差タウン・工業タウンが隣接していたら?!」

### ●概要

近くのまちの施設が自身のまちにどのようなメリットやデメリットをもたらすか、また、どのように連携するのがよいかを考える。その上で、周りの町と協力したSDGsの達成について考える。また、世界で協力してのSDGs達成についても考える。

### ●ねらい

まちが連携する上において起きる相乗効果（シナジー）やトレード・オフについて考え、SDGsの目標達成の難しさを体験する。また、SDGsの達成を目指す世界の縮図を体験する。

### ●主な対象

中学生～高校生

●用意するもの

- ・筆記用具
- ・ワークシート③ (P51) : 全員分
- ・アクティビティ1で使用した各班のタウンシート
- ・(アクティビティ1を実施していない場合) 班ごとのタウンシート (P52)
- ・格差タウンシート (P53)
- ・工業タウンシート (P54)
- ・ワークシート④ (P55)
- ・市長設定カード : 各1枚ずつ (P56)
- ・ふり返りシート (P57) : 全員分

●所要時間

45~50分 (アクティビティ1を実施していない場合は90分程度)

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点 (ポイント)
<p>1. 自分たちの町ですべてのSDGs達成が難しいので、近くの町と協力して達成できたらいいのですけど…もし「格差タウン」「工業タウン」が近くにあったらどうするか、考えよう。</p> <p>2. 「格差タウン」、「工業タウン」、各班のタウンシートと河川・幹線道路がどのように配置されているかを、図1 (6班用) または図2 (9班用) を参考に説明する。</p> <p>3. ワークシート④を配布し、「格差タウン」「工業タウン」が隣接していることのメリット・デメリットを班で考える。その上で、SDGs達成に向けて、どちらのタウンとどのような交渉をするかも考える。</p> <p>4. ワークシート③を使って、「格差タウン」「工業タウン」の市長とSDGsの達成に向けて交渉しよう。</p> <p>5. ワークシート③の3. に、交渉はうまくいったか、うまくいった・いかなかったの理由を書く。</p> <p>6. ふり返りシートを記入する。</p>	<p>ワークシート③を記入していく。アクティビティ1を実施していたら、作成したタウンシートについて、実施していなければ「班ごとのタウンシート」を使用して実際の自分たちのまちで考える。</p> <p>「格差タウン」「工業タウン」の市長は教員・生徒がやってもよい。「格差市長の設定カード」「工業市長の設定カード」を参考に、演じる。</p> <p>全体に感想を共有してもよい。</p>

タウンの設置は、以下のような形がよいと思われる。

図1：6班の場合

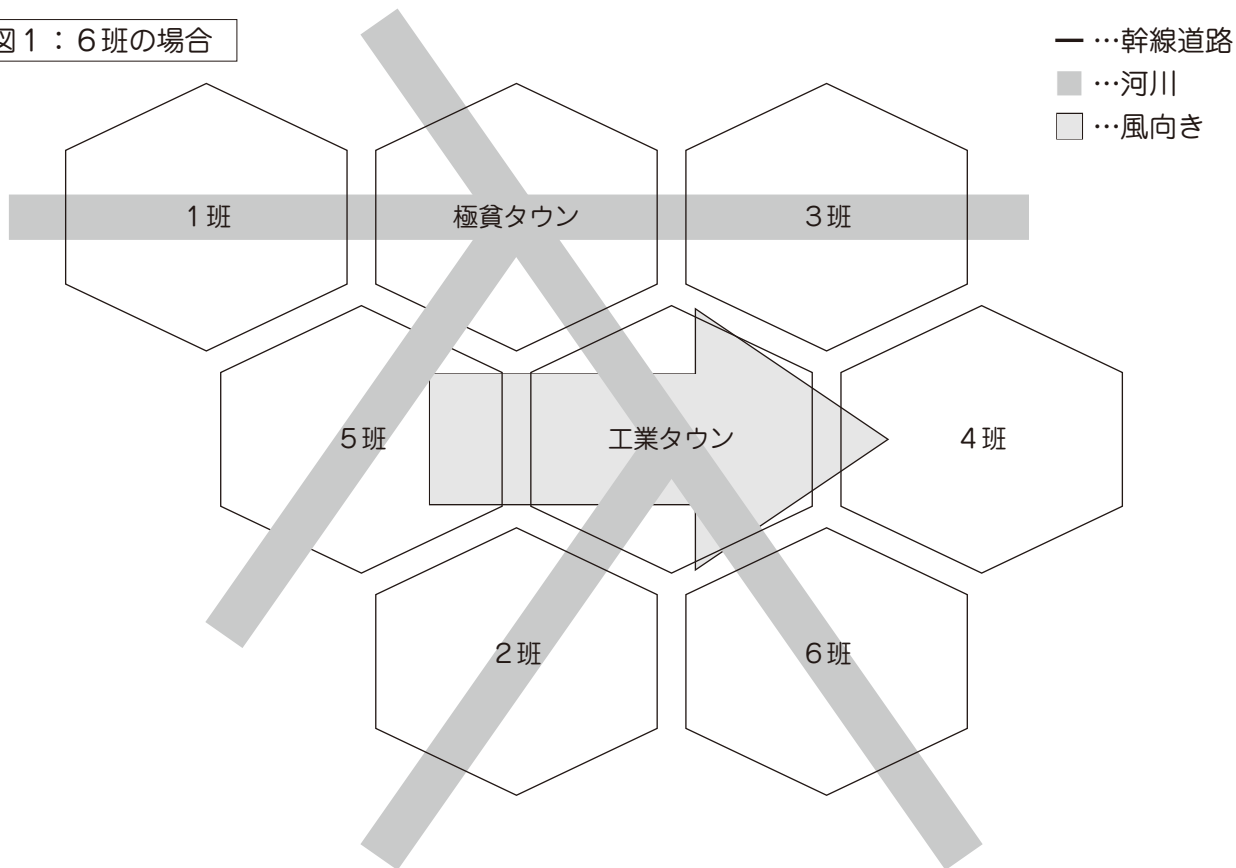
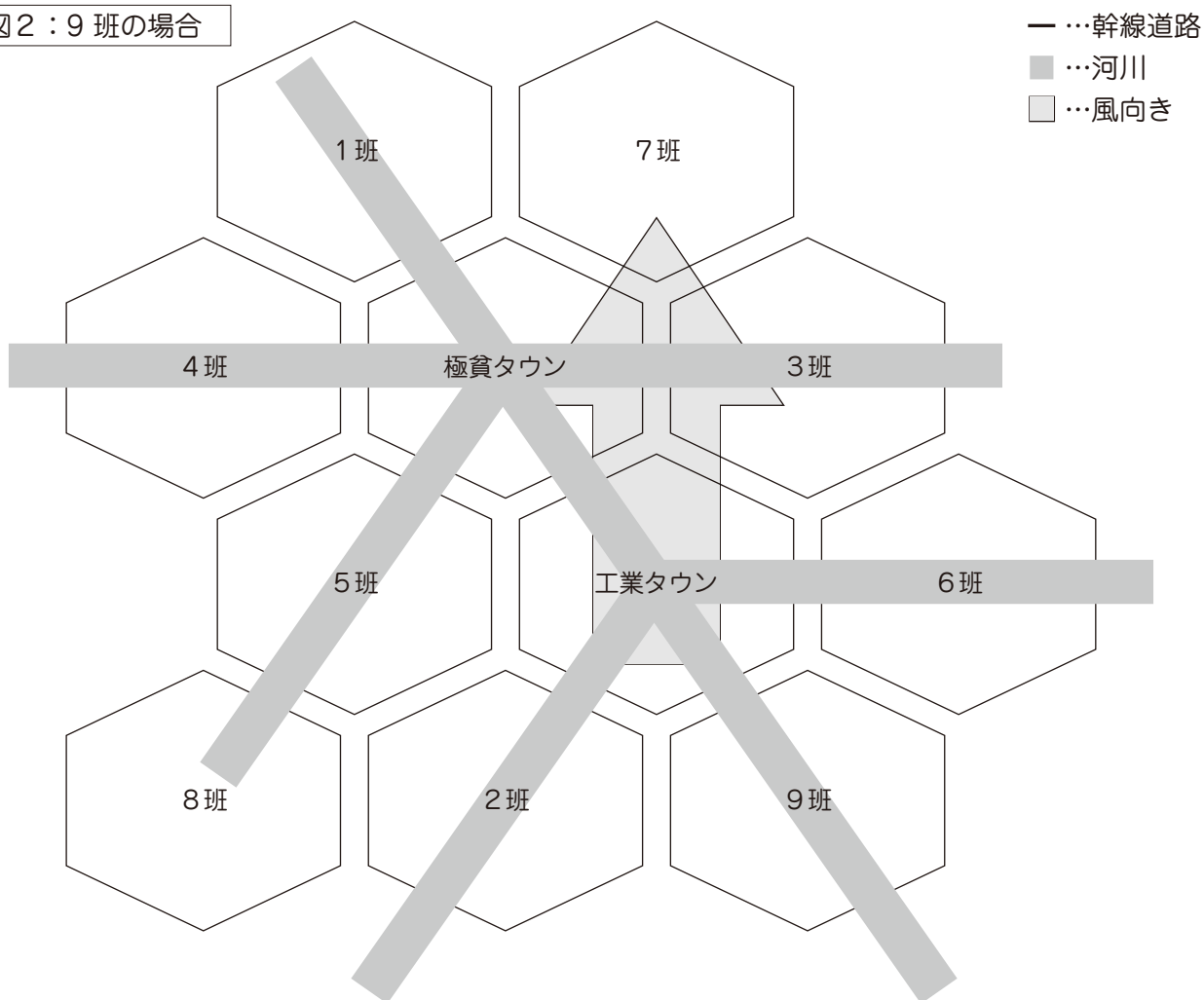


図2：9班の場合



## ワークシート③

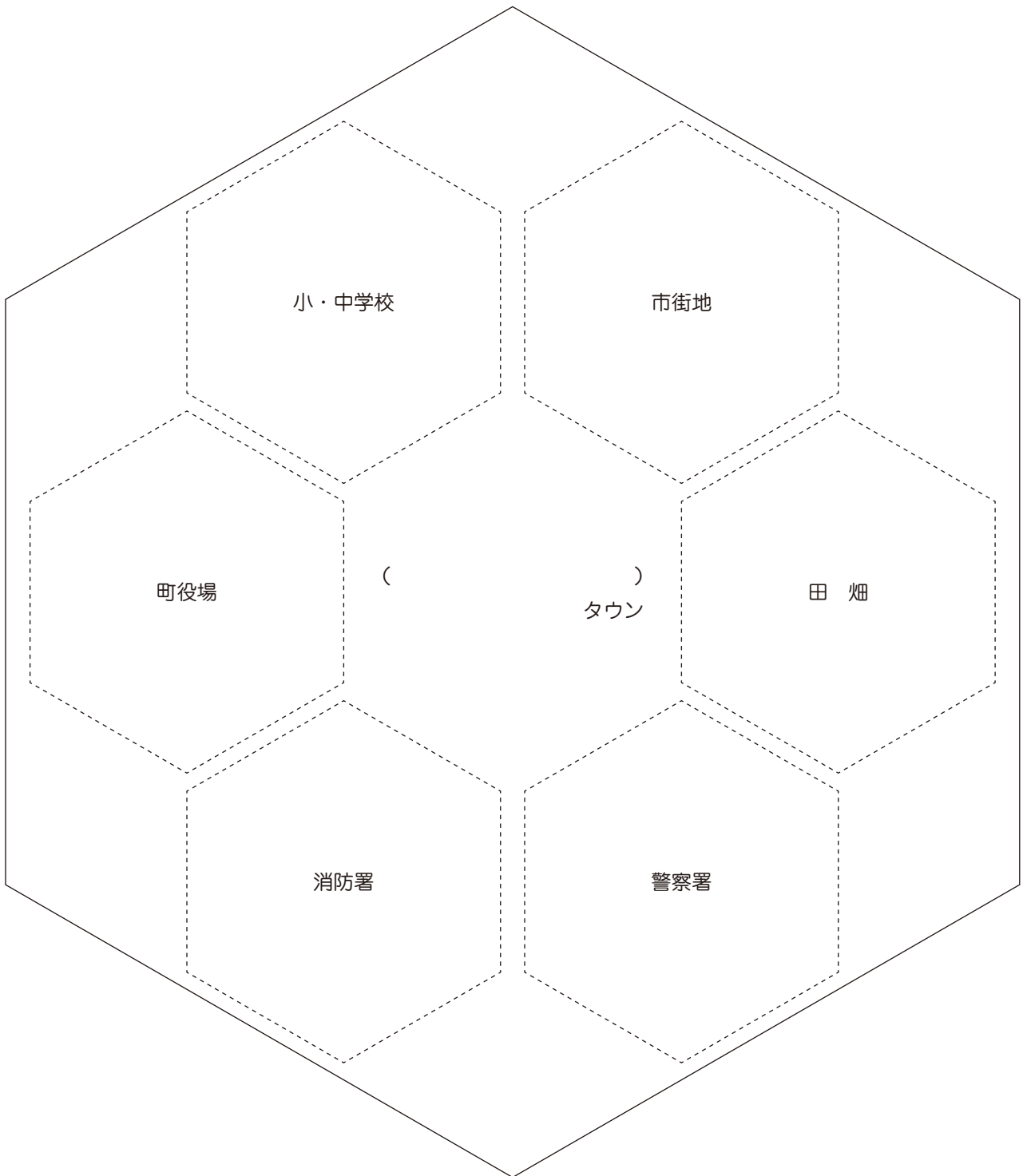
私たちの町では、どのくらいSDGsの目標が達成できるでしょうか？

(出典：SDGs副教材私たちがつくる持続可能な世界～SDGsをナビにして～)

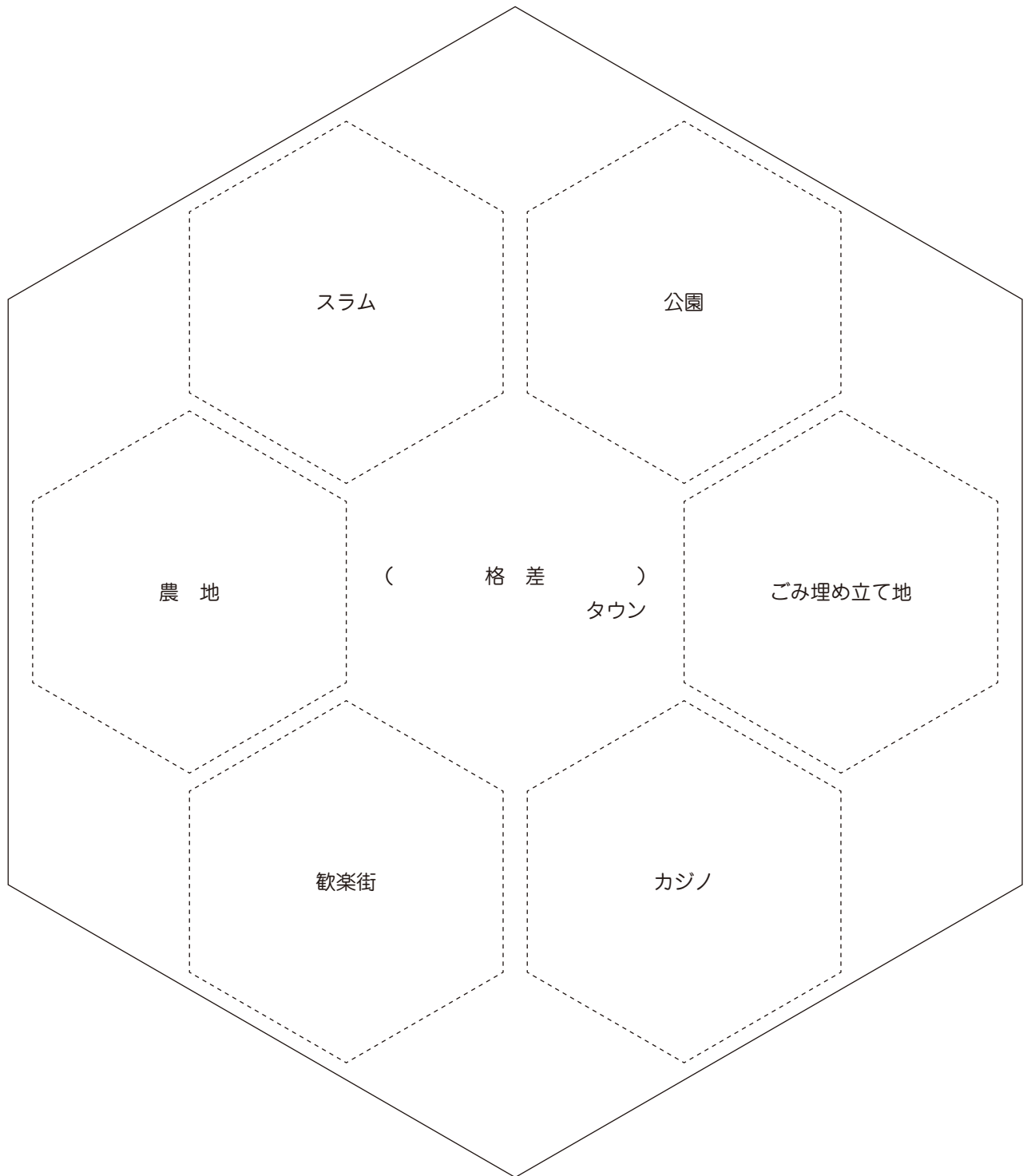
SDGsの達成度

<p>1 貧困をなくそう</p>	<p>あらゆる場所のあらゆる形態の<b>貧困</b>を終わらせよう</p>	<p>高い・普通・低い・わからない</p>
<p>2 飢餓をゼロに</p>	<p>飢餓を終わらせ、全ての人が一年を通して<b>栄養</b>のある十分な食料を確保できるようにし、持続可能な農業を促進しよう</p>	<p>高い・普通・低い・わからない</p>
<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>あらゆる年齢の全ての人の<b>健康的な</b>生活を確保し、福祉を促進しよう</p>	<p>高い・普通・低い・わからない</p>
<p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>全ての人が受けられる公正で質の高い<b>教育</b>の完全普及を達成し、生涯にわたって<b>学習</b>できる機会を増やそう</p>	<p>高い・普通・低い・わからない</p>
<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	<p><b>男女平等</b>を達成し、全ての女性及び女兒の能力の可能性を伸ばそう</p>	<p>高い・普通・低い・わからない</p>
<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	<p>全ての人が、安全な<b>水とトイレ</b>を利用できるようにし、衛生環境を改善し、ずっと管理していけるようにしよう</p>	<p>高い・普通・低い・わからない</p>
<p>7 持続可能なエネルギーをみんなに</p>	<p>全ての人が、安くて安定した持続可能な近代的<b>エネルギー</b>を利用できるようにしよう</p>	<p>高い・普通・低い・わからない</p>
<p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>誰も取り残さないで持続可能な<b>経済成長</b>を促進し、全ての人が生産的で働きがいのある<b>人間らしい仕事</b>に就くことができるようにしよう</p>	<p>高い・普通・低い・わからない</p>
<p>9 産業と製造業の革新的な成長を促そう</p>	<p><b>災害に強いインフラ</b>を作り、持続可能な形で産業を発展させ<b>イノベーション</b>を推進していこう</p>	<p>高い・普通・低い・わからない</p>
<p>10 人や国の不平等をなくそう</p>	<p>国内及び国家間の<b>不平等</b>を見直そう</p>	<p>高い・普通・低い・わからない</p>
<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>安全で災害に強く、持続可能な<b>都市及び居住環境</b>を実現しよう</p>	<p>高い・普通・低い・わからない</p>
<p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>持続可能な方法で<b>生産</b>し、<b>消費</b>する取り組みを進めていこう</p>	<p>高い・普通・低い・わからない</p>
<p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p><b>気候変動</b>及びその影響を軽減するための緊急対策を講じよう</p>	<p>高い・普通・低い・わからない</p>
<p>14 海の豊かさを守ろう</p>	<p>持続可能な開発のため<b>海洋資源</b>を保全し、持続可能な形で利用しよう</p>	<p>高い・普通・低い・わからない</p>
<p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	<p><b>陸上の生態系</b>や森林の<b>保護・回復</b>と持続可能な利用を推進し、砂漠化と土地の劣化に対処し、生物多様性の損失を阻止しよう</p>	<p>高い・普通・低い・わからない</p>
<p>16 平和と正義をすべての人に</p>	<p>持続可能な開発のための<b>平和的</b>で誰も置き去りにしない<b>社会</b>を促進し、全ての人が<b>法や制度</b>で守られる社会を構築しよう</p>	<p>高い・普通・低い・わからない</p>
<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>	<p>目標の達成のために必要な手段を強化し、持続可能な開発にむけて<b>世界のみならず</b>協力しよう</p>	<p>高い・普通・低い・わからない</p>

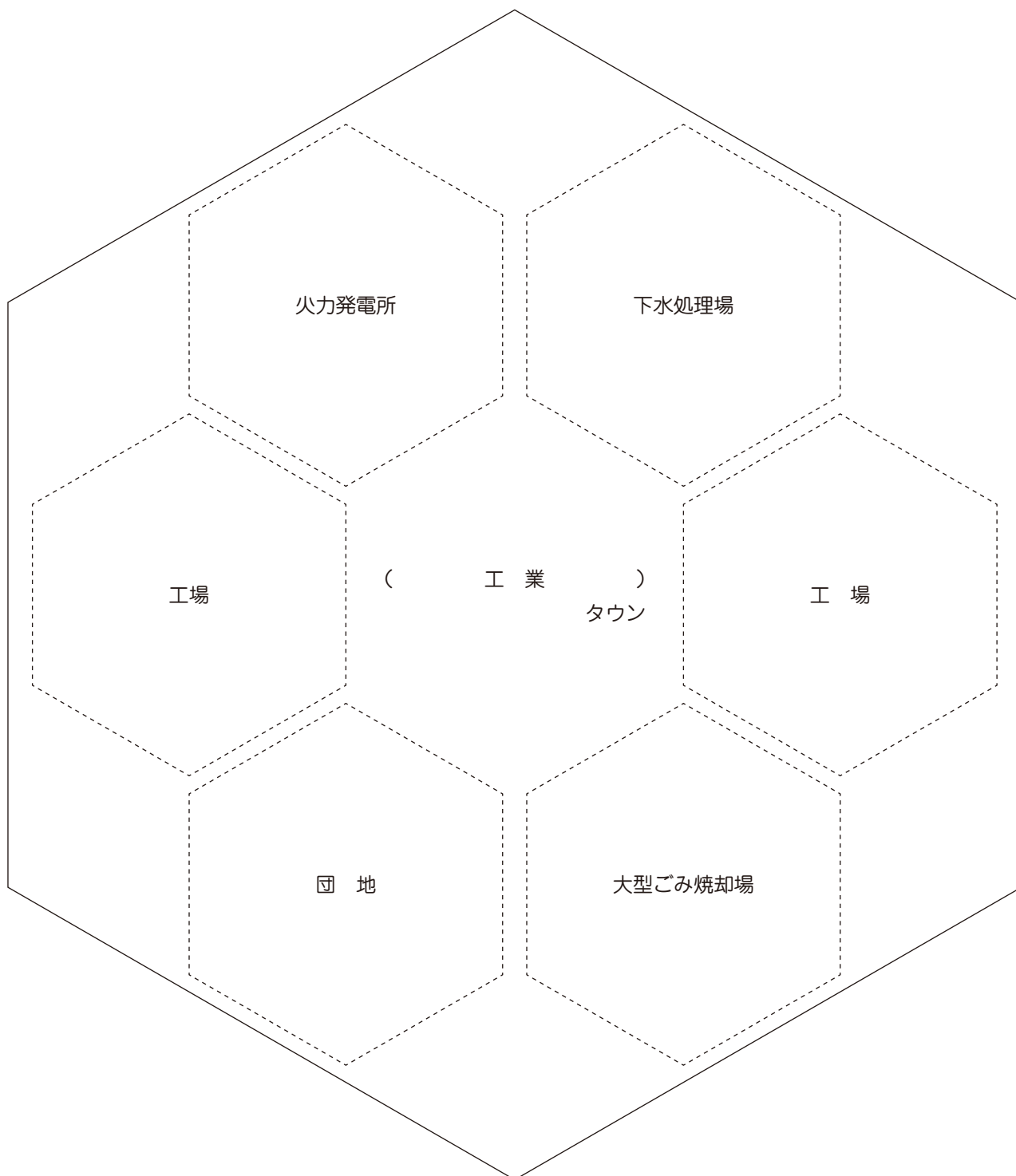
班ごとのタウンシート



格差タウンシート



# 工業タウンシート



## ワークシート④

「格差タウン」「工業タウン」が隣接していたら、どんなことがあるだろうか？

・隣接していて、「いい面（メリット）」はあるだろうか？

・隣接していて、「課題となる面（デメリット）」はあるだろうか？

・SDGsの目標達成について、「                      タウン」の市長と交渉する準備をしよう！

2. 交渉はうまくいったか？（ はい ・ いいえ ）  
うまくいった・うまくいかなかった理由は何だろうか？



## 市長設定カード

「格差市長の設定カード」( いらすとや から出典)

- ・格差タウンでは、SDGs①の目標をまず達成しようとしています。
- ・土地がやせ農業もままならない。
- ・産業としては、農業・ごみの埋め立て・客商売・カジノ店員が多い。
- ・公園は、スラム化しつつあり、ホームレスも多くなってきた。
- ・歓楽街やスラム、カジノが周りの町に悪影響を及ぼすのはわかるが…  
生きていくためには仕方がないのです。
- ・支援をいただけるなら、支援していただきたい！



格差タウン 市長

「工業市長の設定カード」

- ・経済発展が最優先！
- ・工場で生産／発電所で発電することで、私たちは経済的に豊かになれる！
- ・他の町でもうちの町で発電した電気を使っているじゃないか。
- ・他の町でもうちの町で生産した製品で便利になっているじゃないか。
- ・他の町のごみ焼却はうちの町でやっているのはご存じですか。
- ・他の町は工業タウンが経済発展しているのがうらやましいだけ。
- ・SDGsの達成よりも経済発展の方が優先でしょ？
- ・生きていくためには、お金を稼がなくては  
いけないのは当たり前。



工業タウン 市長

## ふり返りシート

( )年 ( )組 氏名( )

- 今回のアクティビティでは、市町村との関わりから協力してのSDGsの達成を考えた。周りの個人・企業・地域と協力してSDGsの目標を達成しようと思うと、障害になっていることは何か？

- 京都議定書の締結において交渉がうまくいかないことがあった。以下の先進国と発展途上国の主張を見て、どういったところに交渉の難しさがあったのか、考えよう。

(「アクティブ10公民 対立から合意を目指すには？」 6:37~9:16より出典)

**先進国側** 「途上国のなかにもたくさん温室効果ガスを排出している国がある。だから途上国も排出量の削減を行うべき」

**途上国側** 「温室効果ガスを排出して温暖化の原因を作ったのは先進国。途上国にも工業化して豊かになる権利がある。だから工業化の妨げとなる排出削減には応じられない」

- 上記で考えた障害となっていることや交渉の難しさを乗り越えるためには、どのようなこと（考え方・出来事など）が必要か、考えよう。

- 感想

## アクティビティ3 「自分たちの町の30年後の将来は…？」

### ●概要

SDGsが達成された2030年を経て、どのようになっていて欲しいかについて考える。今ある自分たちの町の強みやこれからも進んでいくグローバル化・情報化・イノベーションを生かすとともに、50年後・100年後も持続可能な町を考えていく。また、そういった町にしていくために、個人として何をするか、地域の自治会・NPOなどの団体として何をしていくか、地方公共団体・国に何を求めるかを考え、実現に向けてのバックキャストिंगをする。

### ●ねらい

持続可能な地域の創り手としての意識を高める。

### ●主な対象

中学生以上

### ●用意するもの

- ・筆記用具
- ・ワークシート⑤（P60）：全員分
- ・ワークシート⑥（P61～62）：全員分
- ・ワークシート⑦（P63）：全員分
- ・ワークシート⑧/ふり返りシート（P64～65）：全員分
- ・模造紙：各班1枚
- ・マジック：各班1セット
- ・ふせん：各班に3色（赤・青・黄）

### ●所要時間

45～50分×3～4回

（3回の場合、1～3／4～5／6～7。4回の場合、1／2～3／4～5／6～7で分ける。）

● すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<p>1. 自分たちの町（地域）の強みと課題を出し合ってみよう。</p> <p>※自分たちで図書館の書籍やインターネットで調べてもよい。</p>	<p>ワークシート⑤に各自で記入していく。</p> <p>調べ学習として宿題とする、1時間の授業として行うでもよい。</p>
<p>2. 模造紙にふせんを貼り、どのような町にしていきたいかを考える。</p> <p>例：赤…町の強み・すごいところ 青…町の弱み・課題 黄…外部からのリソース・支援</p> <p>3. 各班でどのような町にしていきたいかを発表しあう。</p>	<p>ワークシート⑤を参考にしてグループでふせんに記入していく。コンセプトとしては、「ず～っと住み続けられる30年後の私たちの町（地域）」とする。</p> <p>ふせんを模造紙の上に貼って、仲間分けをしたり、マジックで追加情報を書いたり、どんな町にしたいかを班のメンバーで合意形成をしながら、話し合っって中心に書き込む。</p> <p>ワークシート⑥に記入しながら聞き、すべての班が発表し終えたら、記入したワークシート⑤を切り、発表した班にフィードバックする。</p> <p>※ワークシート⑥の（1）は6班用、（2）は9班用</p>
<p>4. フィードバックされた内容や他の班の発表を聞いて、模造紙に追加情報を書き込んでいく。</p> <p>5. 出来上がった模造紙を参考に、今から何をするかを考える。</p>	<p>ワークシート⑥のP・M・Iのそれぞれについてどういったことが書かれているか分析をしながら付け足していく。</p> <p>ワークシート⑦を記入していく。</p>
<p>6. 各班で、フィードバック後にどのように変化があったか、今から何をするかについて発表しあう。</p> <p>7. ふり返りシートを記入する。</p>	<p>ワークシート⑧を記入していく。</p> <p>ワークシート⑧の（1）は6班用（2）は9班用 ※できれば、学校教職員・保護者・地域の公民館・町内会長の方などに聞いていただき、フィードバックしてもらえると、より生徒の考えが深まり、地域への発信にもなるかと。地域の大人にもSDGsについて考え、行動してもらえるように…。</p> <p>全体に発表してもよい。</p>

## ワークシート⑤

「ず〜っと住み続けられる30年後の私たちの町（地域）」を考えるための情報を集めよう。

・私たちの町の強み・すごいところ

--

・私たちの町の弱み・課題

--

・周りの町／日本／世界で活用できそうなこと・ひと・もの

--

**ワークシート⑥ (1)** ※6班用

他の班の「ず～っと住み続けられる30年後の私たちの町（地域）」の発表を聞いて、P（よいと思ったこと）M（もう少し考えておいた方がいいこと）I（興味深かったこと）について書き込もう。

※自分の班については書かない。

	P(よいと思ったこと)	M(考えておいた方がいいこと)	I(興味深いと思ったこと)
班			
班			
班			
班			
班			

**ワークシート⑥ (2)** ※9班用

他の班の「ず～っと住み続けられる30年後の私たちの町（地域）」の発表を聞いて、P（よいと思ったこと）M（もう少し考えておいた方がいいこと）I（興味深かったこと）について書き込もう。

※自分の班については書かない。

	P(よいと思ったこと)	M(考えておいた方がいいこと)	I(興味深いと思ったこと)
班			
班			
班			
班			
班			
班			
班			
班			
班			

## ワークシート⑦

自分の班で作成した「ず～っと住み続けられる30年後の私たちの町(地域)」にするために、  
今から何をするか、何ができるかを考えよう。

・ 目指す30年後の私たちの地域の要点

・ 私個人が何をするか。何ができるか。

・ 私の所属する身近な社会集団で何をするか。何ができるか。

【 例：家族、学校（クラス・学年・部活動・生徒会・委員会）、友達、習い事・NPOなど 】

・ 地方公共団体や国に何を求めるか。



**ワークシート⑧／ふり返りシート(1)** ※6班用

( )年 ( )組 氏名( )

他の班の「ず～っと住み続けられる30年後の私たちの町(地域)と今すること・できること」の発表を聞いて、感想を書き込もう。※自分の班については書かない。

	発表の感想
班	
班	
班	
班	
班	

●今回のアクティビティでは、SDGs達成が済んだ30年後の自分たちの地域について考えた。今回「理想とする30年後の町(地域)」や「そのために今からする・できること」も考えた中で、あなた自身になにか変化があったか。

( あった ・ なかった ・ わからない )

理由としては…

●感想

**ワークシート⑧／ふり返りシート(2)** ※9班用

( )年 ( )組 氏名( )

他の班の「ず〜っと住み続けられる30年後の私たちの町(地域)と今すること・できること」の発表を聞いて、感想を書き込もう。※自分の班については書かない。

	発表の感想
班	
班	
班	
班	
班	
班	
班	
班	
班	

●今回のアクティビティでは、SDGs達成が済んだ30年後の自分たちの地域について考えた。今回「理想とする30年後の町(地域)」や「そのために今からする・できること」も考えた中で、あなた自身になにか変化があったか。

( あった ・ なかった ・ わからない )

理由としては…

●感想

●資料・解説①：公害に立ち向かう町・倉敷市（水島地区）

公益財団法人 水島地域環境再生財団（みずしま財団）では、倉敷公害訴訟の和解前（1995年）に患者さんの願いを込めて作られた「よみがえれ 水島のまち 公害のまちから緑と水、賑わいのまちへー水島再生プラン」をもとに、2020年の現状を環境アセスメント手法でチェックし、新たに「2030年の水島、こうなったらいいな」を作成されました。

「過去」「現在」「未来」をつないで考える町づくりは、それぞれの地域を考えるうえで、参考になっていく事例かと思えます。参考にさせていただくと、より深まるかと思えます。（以下、一部参照）

①グリーンベルト（緑の木）でコンビナートをつつむ

<1995年の提案>

まるで森の向こうに工業地帯があるように住宅と工場をグリーンベルトで分けます。

今の工場立地法を活用したり県条例の上乗せで実現させましょう。併せてコンビナートの安全基準見直しやチェック体制を考えます。



現在の状況

【グリーンベルトの整備】

緩衝緑地（グリーンベルト）は、総面積67.5haが1971～1983年にかけて整備され、樹木は大きく育っている。みずしま財団では、2000年に緩衝緑地と地域内の児童公園の樹木のCO<sub>2</sub>吸収量調査を実施し、水島コンビナートからの排出量との比較を行った。水島コンビナートからの年間排出量の推計（約780万t）と比較して圧倒的に少なかった。

【地球温暖化防止】

岡山県内の温暖化物質の排出量の約60%は産業部門からの排出であり、著変ない。

みずしま財団では、2010年度から岡山県の制度をもとに、県内の温暖化物質の排出状況を調査し、削減に向けて、市民を対象に啓発活動を行っている。



緩衝緑地

【公害対策】

倉敷市の光化学オキシダント注意報発令は、2006年以降連続しており、原因究明や発生抑制の課題が残っている。洗濯竿が煤で汚れる等、煤塵について住民の声があり、市にも苦情が寄せられている。

2030年の水島、こうなったらいいな

- 商店街内の未活用空間や基幹公園が樹木に覆われた緑地になり、緑多い水島のまちづくりを進める。
- 産業部門での、大幅なCO<sub>2</sub>排出量削減を実現するために、既存技術を生かした設備更新や、再生可能エネルギー、省エネルギー設備の導入を進める。



岡山県内のCO<sub>2</sub>排出量



（岡山県温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度より）

（出典：みずしま財団設立20年記念事業「2030年の水島、こうなったらいいな」～持続可能な地域をめざして～）

## ●資料・解説②：外国人労働者とともに歩む GO TO☆ワンハート・江津市

島根県江津市（人口：23,402人〔2019年〕、面積：268.2km<sup>2</sup>）

島根県の外国人労働者数：4,405人〔2020年〕

内訳 ベトナム（1,304人）ブラジル（1,192人）中国（727人）フィリピン（422人）他（760人）

今回の研修でのフィールドワークで伺わせていただいた「日本語交流クラブ GO TO☆ワンハート」の代表をされている山藤美之さんが団体を作るきっかけは、以下の外国人労働者の技能実習制度の課題に気づかれたからだそうです。

- ・雇用者の外国人に対する人権の軽視 …（例）雇用事業主がパスポートを取り上げて管理
- ・安い労働力の確保が目的 …（例）違法な時間外労働／賃金不払い残業
- ・不法な借金を背負わされての来日 …（例）現地ブローカーからの搾取（50万～150万円）
- ・技能実習制度の適応は1回きり …（例）2度目の実習はダメ
- ・地域に溶け込めないまま、帰国 …（例）地域との接点の少なさ／賃金の大半は本国へ送金

このままでは、日本の悪いイメージが強くなり、外国人労働者に「選ばれる国」ではなくなっていくのではないかということでした。そこで、日本で暮らす在住外国人の地域での生活を豊かにしたい！という思いから、団体を立ち上げました。日本語学習支援・体験イベント・交流イベント・相談という4つの手段を通して、地域住民との相互理解促進とコミュニケーション能力の向上をし、「地域に定着した豊かな多文化共生社会」を実現していこうということでした。

山藤さんの話の中で、実際に外国人労働者のベトナムの方で何年か江津市に住んでいるのに、職場と住居・スーパーマーケットくらいの往復をするくらいで、地元の水族館に行ったこともなかったり、それについて何も知らなかった方がいたそうです。職場や地域の日本人とコミュニケーションを如何にとれていないかが浮き彫りになっていると思えました。

交流したベトナムの外国人労働者の方も、このGO TO☆ワンハートのイベントに参加するようになって、地域の年中行事に参加したり、地域に関わるようになっていったりしたそうです。

アジアフェスタ2020@ごうつ 日本語スピーチコンテスト

最優秀賞 グエン ツイ リンさん『出会いが変えた日本の生活』（抜粋）

「…日本語も、わからず、仕事を、教えてもらっても、言葉がわかりません。意味が分からないくせに、わかったふりして、何度も仕事を間違えました。買い物に行って、油とお酢を間違えて買ったこともあり。だから、どこにも出かけず、仕事ばかり…辛くて、寂しくて、悲しくて…「ベトナムに帰りたい」と思いました。…中略…

（ワンハートに参加するようになって、）毎週、日曜日に、みんなと一緒に日本語の勉強をして、お花見、浴衣、いちご狩り、バーベキュー…私の日曜日は、とても忙しくて、楽しくなりました。特に楽しかったのは、日本人と一緒に、ベトナム料理を作って食べる交流会です。ベトナム料理を食べて、「おいしい！」って、言ってくれたからです。両市で、ベトナムのことが大好きになってもらえたから、私の心はウキウキ、うれしくなりました。ワンハートとの出会いのおかげで、日本人と話ができるようになりました。…」

「相互理解・相互交流をする場」を作ること・参加すること・そこに巻き込んでいくことが、「苦しんでいる人（外国人だけでなく、日本人も含め）」の助けとなって、誰も取り残さない町になっていくのではないのかと思われました。

## ●おわりに

昨今、SDGsについて報道・学習が多くなってきている。そんな中だからこそ、どの目標も欠けることなく、誰一人として取り残さないという難しさを共有していくことも大切ではないだろうか。また、SDGsが達成された2030年以降も私たちは、地球・日本・地域に暮らし続ける人がほとんどであるからこそ、2030年以降のことも見据えていないといけないのではないだろうか。VUCAの時代と言われる「正解」がない現代には、私たちの持てる知恵と技術を総動員し、子どもも大人も関係なく、身の回り・地域・自治体・国・世界をも巻き込み、対立と合意を繰り返しながらも、協働して「最適解」を考え、実践・行動できる人材が求められているのではないだろうか。そういった思いを込めて、(ぶつけて…?)作成しました。上記のようなことが考えられる・培える学習材になっていると嬉しいです。今回、そして、今までお世話になった・学ばせていただいた方々に感謝です。

## 参考・引用資料

- ・『まちの未来を描く！自治体のSDGs』高木 超 [著]、学陽書房、2021年。
- ・SDGs 副教材 私たちがつくる持続可能な世界～SDGsをナビにして～  
(<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/kyozai/>)
- ・アクティブ10公民 対立から合意を目指すには？  
([https://www2.nhk.or.jp/school/movie/bangumi.cgi?das\\_id=D0005120484\\_00000](https://www2.nhk.or.jp/school/movie/bangumi.cgi?das_id=D0005120484_00000))
- ・パンフレット『みずしま財団設立20年記念事業「2030年の水島、こうなったらいいな」～持続可能な地域をめざして～』、NPO 地域づくり工房 [著]、2020年。  
(<https://www.mizushima-f.or.jp/jyuhou/pdf/2020-02.pdf>)

## 外国人材と多文化共生 ～地域を担う外国人について～

山藤 美之

### ■「うちの孫は日本人だけえな。変な言葉、教えんさんな！」

日本人男性と結婚し、江津にやってきたインドネシア人のKさんが、授かった赤ちゃんをあやしている時に、思わずインドネシア語で、赤ちゃんに語りかけたんでしょう。嫁ぎ先の義父母から言われた言葉です。なんと心ない言葉なんでしょうか。人としての本能、人権、アイデンティティすべてを壊してしまう言葉です。地域の日本語ボランティアの日本語指導以外の目的に気づかされた言葉でした。

### ■「アクアス？、知らないです…。」

江津初の女性ベトナム人技能実習生のうち4人がワンハートに入会したのは江津に来て8ヶ月過ぎたときでした。江津の数少ない観光施設である「しまね海洋館アクアス」は県内外からのお客さんが来たときは必ず連れて行く場所という認識のあった私は当然、彼女たちも、会社の人に連れられて行ったことあるだろうと思っていました。

「じゃあ、いままで、どこに行ったことがありますか？」と聞いたら

「〇〇(近くのスーパーの名前)」

ということは、彼女たちは地元のスーパーと会社と寮の3箇所しか知らず、放っておくとその3箇所だけで3年間を過ごして帰国することになるんだ！そりゃないでしょ！会社の上司や同僚は、何故、休日にアクアスに連れて行かないの？技能実習生って、いったいなんなんだ？どうなっているんだ？…たっくさんの！や？が噴出しました。

技能実習制度に向き合うきっかけとなりました。

### ■「ここは日本です。信じられる？だれか助けてください。」

私のSNSにはベトナム人の友達がたくさんいます。そのため時折、ベトナム語の投稿が表示されます。ある日そんなベトナム語の投稿をなにげなく見ていたらベトナム語に混じって漢字で「島根県」という単語があり、汚い部屋や台所の写真が添えられているのを見つけました。早速、ベトナム人にその投稿を日本語に訳してもらって驚きました。そこには劣悪な環境で働き、生活するベトナム人技能実習生の悲痛な訴えが書いてありました。助けたい！助けなければ！そう思い動きました。当該の実習生達と直接会って聞き取りをし、当該の自治体、労働基準監督署、JITCO(国際人材協力機構)…色々動き、もがきまくった揚げ句、彼らを助けることはできませんでした。それぞれの機関で理解してもらって、それぞれで動いてもらったのに…です。要は「外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律」では助けられなかったのです。情けなくも悲しい現実です。



### ■「技能実習生について、具体的なことを初めて聞きました。」

最近、大学生に外国人材について講義をする機会がありました。上記が学生の感想でした。でも、よく考えてみてください。技能実習生制度の前身である研修制度ができたのが1990年。以来30年、今や約40万人の技能実習生が日本で働いています。外国人労働者というカテゴリーでみると180万人が働いています。「知らなかった」と簡単に言っているものなののでしょうか？知る機会が、なぜ無かったのでしょうか？

### ■30年前から変わっていない？国際感覚

1987年JETプログラムでCIR(国際交流員)やALT(外国語指導助手)が、市町にやってきて「国際交流」という言葉が多用されるようになりました。さらに2000年に総合的な学習の時間が学校に導入され、「国際教育」、「国際理解」という言葉が流行しました。CIRやALTの母国について紹介するセミナー、料理交流会さらには彼らを日本の行事に参加させた交流会などが各地で盛んに実施されたものです。

時代は大きく変わりました。30年前の在留外国人は約130万人。それが今は290万人に倍増！さらに外国人労働者数になると約48万人だったのが、2020年には172万人、3倍以上に増えています。当時の技能実習生はほぼ中国人でしたが、今はベトナム人が主流になっています。

それに対して多文化共生への取り組みはどうでしょうか？30年前と変わっているのでしょうか？公共施設の案内標記は相変わらず、英語、中国語、韓国語表記のままです。今や日本の産業を支えているベトナム人のためのベトナム語標記を追加した施設ってあるのでしょうか？今でも国際交流イベントはたくさん開かれています。多文化共生の第一歩は「交流」。でも、この30年、第一歩で止まって足踏みしているのではないのでしょうか。

外国人を外国人と見ている間は「交流」で止まってしまいます。外国人も地域の住民なのだと認識しないと再び歩みが始まらないのではないのでしょうか？

### ■ルツボ？、モザイク？、サラダボウル？

多文化共生社会を例える言葉が、この3つです。ルツボは融解して混ぜり合わせたもの、モザイクは個々の小片をちりばめたもの、サラダボウルは数種の野菜片をドレッシングで混ぜたもの。前述の大学生への講座のときに「多文化共生社会としてめざすのは3つのどれですか？」と聞いて見ました。答えの多くはサラダボウルでした。ルツボのように融解によって民族のアイデンティティを失うことなく、モザイクのように明確な境界を隔てての共存ではなく、適度に混ぜり合っって新しい食感・味を作るサラダボウルがいいということなのでしょう。

でも、忘れてはいけない大切なことがあります。サラダにはドレッシングが必要だということです。ドレッシングで和風にもなり、中華にもなり、イタリアンにもなります。なによりドレッシングがなければそれぞれの野菜の味をまとめることができません。

ドレッシングの働きは素材の味を大切に引き立たせ、新たな味や食感の美味しい料理にすることですね。多文化共生にも、このドレッシングが必要なのです。新たな味や食感は「交流」により知ることができます。これをまとめて美味しい料理にするという意識を我々住民一人ひとりが醸成しなければならないと思います。

## ■「今日、社長が笑ったよ」

ある日曜日、A社の技能実習生の一人が日本語学習支援活動にやってくるや否や「Santoさん！昨日、社長が笑ったよ！3年間で初めて見た！」って言ってきました。「え！そうなんだ、社長、笑ったんだ！」

変な会話ですね。実はこの社長はいつも苦虫を噛みつぶしたようなしかめっ面で、人をにらみつけているような人で、実習生たちも社長をととても怖がっていました。

ワンハートの活動でA社がある地区の公民館でベトナム料理交流会や自治会の夏祭りへの出店などがあり、A社の実習生も参加していました。夏祭りには社長も奥さんと一緒に来られていましたので、自社の実習生が地域の皆さんと交流する姿を見られたと思います。その上で、色々考えられたのでしょうか。おそらく「外国人材」を「労働力」と見ていた社長が、彼らも「地域住民」なんだと認識を新たにされたのだらうと思います。

それまで禁止していた自転車の使用を許可され、やがて寮にエアコンもつけられたり、残業時間が軽減されたりと改善がなされました。

秋のお祭りではA社の実習生がベトナム料理を作って御神輿の休憩場所でおもてなしをしています。A社の近所に住む友人は「A社の実習生はいつも大きな声であいさつしてくれるので、気持ちが和む」と言っています。

「外国人材」が「地域の担い手」になりつつあるんです。

## ■小さな勇気が Dressing に

一部の都市を除いてほとんどの町は過疎化、高齢化で地域の行事もままならない状況にあると思います。でも皆さんの町にも外国人労働者がいるはず。みんな若くて、元気ですよ。ちょっと勇気を出して「おはよう！」って声かけてみませんか？技能実習生にしても、技術者にしても基礎的な日本語はわかります。勇気を出して「どこから来たの？」「名前は？」とどんどん話をしてみましょう。

### 【プロフィール】

山藤 美之（さんとう よしゆき）

日本語交流クラブGOTO☆ワンハート代表。元島根県高等学校教員。1992年～1994年青年海外協力隊に現職参加制度の適用をうけて参加し、ジャマイカの農業大学校に派遣された。2004年ワンハートを立ち上げ、『外国人が地域で豊かに暮らすこと』を目的として日本語学習支援、地域交流イベント、日本生活文化体験の開催などの活動を続けている。現在、島根県人材確保育成コーディネーター、島根県外国人地域サポーター、NPO法人地球のステージ理事。





# この地球で暮らし続けていくために考えてみよう

## はじめに

「現在のペースで二酸化炭素の排出と天然資源の乱用が続けば、2030年までに地球が2つ必要になる。」と、環境保護団体である世界自然保護基金は、報告書「生きている地球（Living Planet）（2010）」でこのような分析結果を発表した。そのような状況の中で、持続可能な地球を実現するための世界共通の行動目標が、「持続可能な開発目標」（SDGs：Sustainable Development Goals）である。第8代国連事務総長の潘基文氏は「SDGsを達成するうえで、企業は、重要なパートナーである。」と述べており、これからのビジネスにおいて、SDGsは看過できない視点の1つになっている。SDGsは、地球規模の目標であり、個々人の視点で何に取り組めるのかを考えることは重要である。そこで、本教材では、まずはSDGsの成り立ちなどSDGsの概要を学習し、将来的に生活する上で重要な視点であることを認識したうえで、学校や、企業などで取り組まれている活動を探し、個々人で現在取り組める活動とともに、将来的な取り組みのアイデアを考える。

## 参加のルール・アクティビティの解説

基本的に、SDGsを学んだのち、調べ学習を行い、それを発表する。調べ学習はグループで行い、お互いに意見を出しあう。全員、全グループの発表が望ましいが、時間的に難しい場合は、3つのアクティビティの中で1回は発表できるようにする。なお、以下の資料および動画を3つのアクティビティ共通で使用する。

<スライド目次>（P81～82参照）

Part 1. SDGsってなんだろう？

Part 2. なぜSDGsを学ぶの？（社会、企業、教育）

Part 3. SDGsを学ぶ意味はそれだけ？（エコロジカル・フットプリント、世界人口の増加）

Part 4. SDGs以前はどんな取り組みがあった？

Part 5. どうしてSDGsにはたくさんのゴールがあるの？

Part 6. 世界でどんな取り組みがあるの？

Part 7. SDGsのためにあなたができることを考えよう

<使用動画>

公益財団法人 日本ユニセフ協会「World's Largest Lessonより『世界に広めよう「持続可能な開発目標(SDGs)」』」  
(<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/kyozai/>)

## 全体のねらい

SDGsの概要を知り、学校や、企業などで取り組まれている活動を調べることを通じて、個々人で取り組めそうな活動や、将来的な取り組みのアイデアを考える。

## 学習計画（全3時間／50分×3回）

- （1）地球規模課題（SDGsなど）を学習する。（講義形式と調べ学習）
- （2）地球規模課題（SDGsなど）の取り組みを知る。（調べ学習と発表）
- （3）地球規模課題（SDGsなど）の達成に貢献できそうな、自分ができる活動を考える。  
（調べ学習と発表）

## 教科・領域との関係

総合的な学習の時間や社会、理科、英語など、地球的課題（環境問題、水問題、紛争問題、SDGsなど）をテーマにした教科横断的な取り組みを行う。

## アクティビティ1「地球規模課題（SDGsなど）を学習する」

### ●概要

以下の内容に関するスライド（アクティビティ1はPart1～Part5を使用）と動画を使い、SDGsの概要を学び、ワークシートを使って身近な生活につなげる。

### ●ねらい

SDGsの基本的な概要を知り、身近な生活につなげる。

### ●主な対象

中学生、高校生

### ●用意するもの

- ・スライド（Part1～Part5）（P81～82参照）※対象者に合わせて適宜修正、補足を加える。
- ・動画「World's Largest Lessonより『世界に広めよう「持続可能な開発目標(SDGs)」』マララ・ユスフザイさん編」
- ・パソコン、プロジェクター
- ・ワークシート①（P74）：全員分

### ●所要時間

50～60分

### ●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
1. スライドを使用しながら、SDGs についての概要を説明する。 2. ワークシート①を使い、生徒自身の生活と SDGs との関係を確認する。	「なぜ、学ぶ必要があるのか」を対象者に合わせ、内容を追加、修正する。

ワークシート①

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

きみの好きなことと、SDGsに関係ある目標を繋げてみよう。

さあ、持続可能な世界を創るために、  
一歩を踏み出そう!

	目 標	✓	どのように関係する？
1	 あらゆる場所のあらゆる形態の <b>貧困</b> を終わらせよう		
2	 <b>飢餓</b> を終わらせ、全ての人が一年を通して <b>栄養</b> のある十分な食料を確保できるようにし、 <b>持続可能な農業</b> を促進しよう		
3	 あらゆる年齢の全ての人の <b>健康的な生活</b> を確保し、 <b>福祉</b> を促進しよう		
4	 全ての人が受けられる <b>公正で質の高い教育</b> の完全普及を達成し、 <b>生涯にわたって学習</b> できる <b>機会</b> を増やそう		
5	 <b>男女平等</b> を達成し、全ての <b>女性及び女兒の能力の可能性</b> を伸ばそう		
6	 全ての人が、 <b>安全な水とトイレ</b> を利用できるようにし、 <b>衛生環境</b> を改善し、 <b>ずっと管理</b> していけるようにしよう		
7	 全ての人が、 <b>安くて安定した持続可能な近代的エネルギー</b> を利用できるようにしよう		
8	 誰も取り残さないで <b>持続可能な経済成長</b> を促進し、 <b>全ての人が生産的に働きがいのある人間らしい仕事</b> に就くことができるようにしよう		
9	 <b>災害に強いインフラ</b> を作り、 <b>持続可能な形で産業を発展させイノベーション</b> を推進していこう		
10	 <b>国内及び国家間の不平等</b> を見直そう		
11	 <b>安全で災害に強く、持続可能な都市及び居住環境</b> を実現しよう		
12	 <b>持続可能な方法で生産し、消費</b> する <b>取り組み</b> を進めていこう		
13	 <b>気候変動及びその影響</b> を軽減するための <b>緊急対策</b> を講じよう		
14	 <b>持続可能な開発のため海洋資源</b> を <b>保全</b> し、 <b>持続可能な形で利用</b> しよう		
15	 <b>陸上の生態系や森林の保護・回復</b> と <b>持続可能な利用</b> を推進し、 <b>砂漠化と土地の劣化</b> に対処し、 <b>生物多様性の損失</b> を <b>阻止</b> しよう		
16	 <b>持続可能な開発のための平和的</b> で誰も置き去りにしない <b>社会</b> を促進し、 <b>全ての人が法や制度</b> で <b>守られる社会</b> を構築しよう		
17	 <b>目標の達成のために必要な手段</b> を強化し、 <b>持続可能な開発</b> にむけて <b>世界のみならず協力</b> しよう		

参考：ユニセフSDGs副教材 (<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/kyozai/>)

## アクティビティ2「地球規模課題（SDGsなど）の取り組みを知る」

### ●概要

本授業では、まず、導入スライドPart6を活用し、「World's Largest Lessonより『世界に広めよう「持続可能な開発目標（SDGs）」』Ⅱエマ・ワトソンさん編『世界でどんな取り組みがあるの?』」の動画を見る。次に【世界の取り組み事例】（P76）のプリントを配布し、世界、国内での中学、高校生のなどの取り組みを確認する。そして、ワークシート②（P77）を使い、SDGsの目標に向けて、世界、国内でどのような取り組みがなされているのかを調べて、発表する。とくに、前回の授業で自身が好きな、もしくは興味がある目標についての取り組みを調べる。

### ●ねらい

現時点で、世界で特に同じような世代の人たちがどんな取り組みをしているかを知る。

### ●主な対象

中学生、高校生

### ●用意するもの

- ・スライドPart6（P82参照）※対象者に合わせて適宜修正、補足を加える。
- ・動画「World's Largest Lessonより『世界に広めよう「持続可能な開発目標（SDGs）」』Ⅱエマ・ワトソンさん編『世界でどんな取り組みがあるの?』」
- ・パソコン、プロジェクター
- ・【世界の取り組み事例】プリント（P76）：全員分
- ・ワークシート②（P77）：全員分

### ●所要時間

50分

### ●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 導入スライド Part6 と「World's Largest Lessonより『世界に広めよう「持続可能な開発目標（SDGs）」』Ⅱエマ・ワトソンさん編『世界でどんな取り組みがあるの?』」の動画を見る。</li><li>2. 【世界の取り組み事例】のプリントを配布し、世界、国内での中学、高校生のなどの取り組みを確認する。</li><li>3. ワークシート②を使い、SDGsの目標に向かって、世界、国内でどのような取り組みがなされているのかを調べて、発表する。</li></ol>	<p>とくに、前回の授業で自身が好きな、もしくは興味がある目標についての取り組みを調べる。</p>

世界の取り組み事例

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界、日本では、SDGsのどんな取り組みがなされているのかな。参考に見よう。

さあ、持続可能な世界を創るために、  
一歩を踏み出そう！

「地元の規格外の特産品の売れ残りを減らしたい！」  
日本(長崎県立諫早高等学校)  
諫早市特産の「おこし」と「伊木力みかん」を組み合わせた「みかんおこし」の開発しました。また、廃棄されていたみかんの皮で椎茸の菌床栽培も開始し、資源の有効活用を目指しました。



「人のためになるようなテクノロジーの仕事に就きたい！」  
トルコ(エリフ・ビルギンさん)  
2年間かけて、本来なら廃棄されるだけのバナナの皮から環境に



16-Year Old Girl Invents Bio-Plastic from Banana Peels



「パイパイ！！プラスチックバック！」  
インドネシア(メラティ&イサベル・ワイゼン)  
美しい故郷バリ島が、レジ袋によって汚染されるのを阻止しようという使命に目覚め、署名を集めたり、海岸を清掃したり、ハンストを決行しました。この努力は、バリの知事が2018年までに島におけるレジ袋を廃止するという宣言をしたことで報われました。



「規格外野菜を用いて  
美幌豚の肉質を改善したい！」

日本(北海道美幌高等学校)  
校内で生産した規格外野菜を発酵乾燥して粉末飼料化し、市販の配合飼料より栄養価の高い製造し、給与することで、出荷までに70%を自給飼料に置き換えることができ、肉質の改善にもつ

「人々の良心や善悪を分別できる心を育みたい！」  
タイ(「MIRAIGAR T1」のTV第2シーズンをスタート！)  
ヒーローのストーリーを通じて、良心や善悪についてのメッセージを伝えることで、テレビで見たヒーローと同じようなカッコいい人になりたいと憧れる子どもが増え、子ども一人ひとりの行動が変わることが重要であると考えています。



「ぼくたちはどう生きるか  
～SDGsを通して～」

日本(相模原市立鳥屋中学校)  
中学生が学園祭でSDGsを発信！



「持続可能な未来の創り手となる学校をめざします！」  
日本(周南市立住吉中学校)  
生徒会活動を「SDGs」につなげ、持続可能な社会の実現に貢献することを宣

委員会	重点目標	取組方針	SDGs
執行部	笑顔あふれる住吉中学校にしよう。	・全員が安心して生活できる学校づくりの推進	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20
生活委員会	ボランティアで地域との輪を広げよう。	・ボランティア活動を中心とした地域奉仕の推進	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20
保健委員会	誰にでも明るい挨拶をしよう。	・挨拶運動の実施	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20
図書委員会	規則正しい学校生活にしよう。	・身だしなみを整え、時間を守る学校生活の推進	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20
放送委員会	全校生徒が健康に過ごせる学校をめざす。	・衛生検査の実施	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20
環境委員会	本からたくさんの学びを得よう。	・熱中症、感染症予防のための啓発活動の実施	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20
給食委員会	本からたくさんの学びを得よう。	・学校保健委員会の実施	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20
放送委員会	放送からの学びを増やそう。	・本紹介や移動図書館等による読書活動の推進	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20
環境委員会	自分のため、他人のためになる清掃を心掛けよう。	・他委員会と連携した放送による啓発活動の実施	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20
給食委員会	食事ができることに感謝しよう。	・放送による時間の管理	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20
環境委員会	自分のため、他人のためになる清掃を心掛けよう。	・無言清掃の実施	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20
給食委員会	食事ができることに感謝しよう。	・ゴミの分別の徹底	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20
給食委員会	食事ができることに感謝しよう。	・学校の環境整備	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20
給食委員会	食事ができることに感謝しよう。	・残量ゼロをめざす取組	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20
給食委員会	食事ができることに感謝しよう。	・地域地産の紹介や食事の大切さに関する啓発活動	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20

参考資料

- ・第5回、第8回食品産業もったいない大賞(農林水産省)
- ・TED日本語 - メラティ&イサベル・ワイゼン: 子どもたちが成し遂げた「バリのレジ袋廃止運動」
- ・Elif Bilgin : [https://youtu.be/EI3vc\\_j-lao](https://youtu.be/EI3vc_j-lao)
- ・IC Net Limited<実績一覧>ASEANでローカルヒーローをプロデュースするコンテンツビジネス海外展開支援

・周南市立住吉中学校 : <http://www.shunan.ed.jp/sumiyoshichu/association.html>

・相模原市「SDGs one by one」 : <https://sdgs.city.sagamihara.kanagawa.jp/middle-school-students-sdgs/>

ワークシート②

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界、国内での取り組みを調べてみよう。また、その活動も書いてみよう。特に自分の好きなこと、興味があることを中心に調べてみよう。複数の目標が重なる場合は、関連の欄に目標番号を記入して下さい。

	目 標	関連	活動内容
1	 あらゆる場所のあらゆる形態の <b>貧困</b> を終わらせよう		
2	 <b>飢餓</b> を終わらせ、全ての人々が一年を通して <b>栄養</b> のある十分な食料を確保できるようにし、 <b>持続可能な農業</b> を促進しよう		
3	 あらゆる年齢の全ての人々の <b>健康的な生活</b> を確保し、 <b>福祉</b> を促進しよう		
4	 全ての人々が受けられる <b>公正で質の高い教育</b> の完全普及を達成し、生涯にわたって <b>学習</b> できる <b>機会</b> を増やそう		
5	 <b>男女平等</b> を達成し、 <b>全ての女性及び子供の能力の可能性</b> を伸ばそう		
6	 全ての人々が、 <b>安全な水とトイレ</b> を利用できるよう <b>衛生環境</b> を改善し、 <b>ずっと管理</b> していけるようにしよう		
7	 全ての人々が、 <b>安くて安定した持続可能な近代的エネルギー</b> を利用できるようにしよう		
8	 誰も取り残さないで <b>持続可能な経済成長</b> を促進し、 <b>全ての人</b> が <b>生産的で働きがいのある人間らしい仕事</b> に就くことができるようにしよう		
9	 <b>災害に強いインフラ</b> を作り、 <b>持続可能な形で産業</b> を <b>発展</b> させ <b>イノベーション</b> を推進していこう		
10	 <b>国内及び国家間の不平等</b> を見直そう		
11	 <b>安全で災害に強く、持続可能な都市及び居住環境</b> を実現しよう		
12	 <b>持続可能な方法で生産し、消費</b> する <b>取り組み</b> を進めていこう		
13	 <b>気候変動及びその影響</b> を <b>軽減</b> するための <b>緊急対策</b> を講じよう		
14	 <b>持続可能な開発のための海洋資源</b> を <b>保全</b> し、 <b>持続可能な形で利用</b> しよう		
15	 <b>陸上の生態系や森林の保護・回復</b> と <b>持続可能な利用</b> を推進し、 <b>砂漠化と土地の劣化</b> に対処し、 <b>生物多様性の損失</b> を <b>阻止</b> しよう		
16	 <b>持続可能な開発のための平和的</b> で <b>誰も置き去りにしない社会</b> を <b>促進</b> し、 <b>全ての人</b> が <b>法や制度</b> で <b>守られる社会</b> を構築しよう		
17	 <b>目標の達成のために必要な手段</b> を <b>強化</b> し、 <b>持続可能な開発</b> にむけて <b>世界のみならず協力</b> しよう		

参考：ユニセフSDGs副教材 (<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/kyozai/>)

## アクティビティ3「地球規模課題(SDGsなど)の達成に貢献できそうな、自分ができる活動を考える。」

### ●概要

本授業では、まず、導入スライドPart7を活用し、「World's Largest Lessonより『世界に広めよう「持続可能な開発目標(SDGs)」』Ⅲ『SDGsのためにあなたができることを考えよう』」の動画を見る。次にワークシート③を使い、SDGsのためにあなたができることを考え、発表する。実現可能性が高いものだけでなく、アイデアを活かした現時点での実現可能性が低いものでも構わない。まずは、目標と関連付けた活動をまとめることを目指す。

### ●ねらい

現在、そして将来において自分になにができるかを考える。

### ●主な対象

中学生、高校生

### ●用意するもの

- ・スライドPart7 (P82参照) ※対象者に合わせて適宜修正、補足を加える。
- ・動画「World's Largest Lessonより『世界に広めよう「持続可能な開発目標(SDGs)」』Ⅲ『SDGsのためにあなたができることを考えよう』」
- ・パソコン、プロジェクター
- ・ワークシート③ (P79) : 全員分

### ●所要時間

50分

### ●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点(ポイント)
<p>1. 導入スライド Part7 と「World's Largest Lessonより『世界に広めよう「持続可能な開発目標(SDGs)」』Ⅲ『SDGsのためにあなたができることを考えよう』」の動画を見る。</p> <p>2. ワークシート③を使い、SDGsのためにあなたができることを考え、発表する。</p>	<p>実現可能性が高いものだけでなく、アイデアを活かした現時点での実現可能性が低いものでも構わない。まずは、目標と関連付けた活動をまとめることを目指す。</p> <p>発表をする際、グッドデザイン賞など、投票をするなどの工夫も可能である。</p>

ワークシート③

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsのためにあなたができることを考えてみよう。

さあ、持続可能な世界を創るために、  
一歩を踏み出そう！

目 標		どこから、誰と、誰に対して、 どんなことを始めればいい？
1 	あらゆる場所のあらゆる形態の <b>貧困</b> を終わらせよう	
2 	<b>飢餓</b> を終わらせ、全ての人々が一年を通して <b>栄養</b> のある十分な食料を確保できるようにし、 <b>持続可能な農業</b> を促進しよう	
3 	あらゆる年齢の全ての人々の <b>健康的な生活</b> を確保し、 <b>福祉</b> を促進しよう	
4 	全ての人々が受けられる <b>公正で質の高い教育</b> の完全普及を達成し、生涯にわたって <b>学習</b> できる <b>機会</b> を増やそう	
5 	<b>男女平等</b> を達成し、 <b>全ての女性及び子供の能力の可能性</b> を伸ばそう	
6 	全ての人々が、 <b>安全な水とトイレ</b> を利用できるようにし、 <b>衛生環境</b> を改善し、ずっと <b>管理</b> していけるようにしよう	
7 	全ての人々が、 <b>安くて安定した持続可能な近代的エネルギー</b> を利用できるようにしよう	
8 	誰も取り残さないで <b>持続可能な経済成長</b> を促進し、 <b>全ての人</b> が <b>生産的</b> で働きがいのある <b>人間らしい仕事</b> に就くことができるようにしよう	
9 	<b>災害に強いインフラ</b> を作り、 <b>持続可能な形で産業</b> を <b>発展</b> させ <b>イノベーション</b> を推進していこう	
10 	<b>国内及び国家間の不平等</b> を見直そう	
11 	<b>安全で災害に強く、持続可能な都市及び居住環境</b> を実現しよう	
12 	<b>持続可能な方法で生産し、消費</b> する <b>取り組み</b> を進めていこう	
13 	<b>気候変動及びその影響</b> を <b>軽減</b> するための <b>緊急対策</b> を講じよう	
14 	<b>持続可能な開発のための海洋資源</b> を <b>保全</b> し、 <b>持続可能な形で利用</b> しよう	
15 	<b>陸上の生態系</b> や <b>森林の保護・回復</b> と <b>持続可能な利用</b> を推進し、 <b>砂漠化と土地の劣化</b> に対処し、 <b>生物多様性の損失</b> を <b>阻止</b> しよう	
16 	<b>持続可能な開発のための平和的</b> で誰も <b>置き去りにしない社会</b> を <b>促進</b> し、 <b>全ての人</b> が <b>法や制度</b> で <b>守られる社会</b> を <b>構築</b> しよう	
17 	<b>目標の達成のために必要な手段</b> を <b>強化</b> し、 <b>持続可能な開発</b> にむけて <b>世界のみならず協力</b> しよう	

参考：ユニセフSDGs副教材 (<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/kyozai/>)



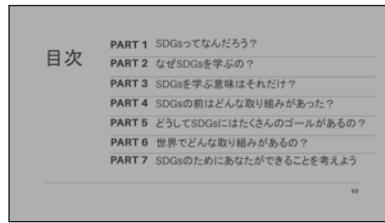
## 参考文献・引用資料

- ・公益財団法人 日本ユニセフ協会HP>SDGs CLUB>「持続可能な開発目標」副教材ポータルサイト>先生方へ  
(<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/kyozai/teacher.html>)
- ・公益財団法人 日本ユニセフ協会「World's Largest Lessonより『世界に広めよう「持続可能な開発目標（SDGs）」』」(<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/kyozai/>)
- ・Drop Inc. iina 学校向けSDGs教材 (<https://iina.sdgs.media/school/>)
- ・「第5回、第8回食品産業もったいない大賞」  
(農林水産省：<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/ondanka/mottai/mottai.html>)
- ・TED日本語 - メラティ&イサベル・ワイゼン: 子どもたちが成し遂げた「バリのレジ袋廃止運動」  
(Elif Bilgin：[https://youtu.be/El3vc\\_j-lao](https://youtu.be/El3vc_j-lao))
- ・IC Net Limited<実績一覧>ASEANでローカルヒーローをプロデュースするコンテンツビジネス海外展開支援
- ・周南市立住吉中学校：<http://www.shunan.ed.jp/sumiyoshichu/association.html>
- ・相模原市「SDGs one by one」：  
<https://sdgs.city.sagamihara.kanagawa.jp/middle-school-students-sdgs/>

●スライド見本 ※データはCDからダウンロードしてください



1



2



3



4



5



6



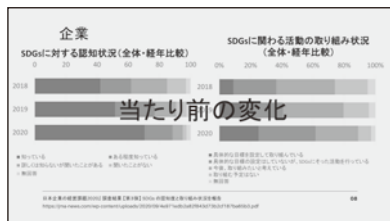
7



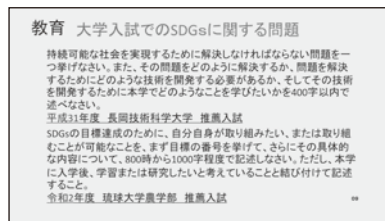
8



9



10



11



12



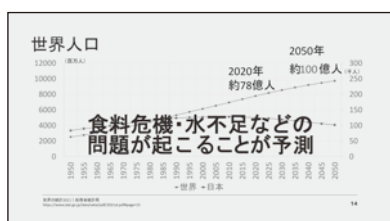
13



14



15



16



17



18





# 相手の価値観を認め、 歩み寄ることを学ぶ

## はじめに

「なぜ平和には温度差があるのだろうか」。広島にきて3年目、平和の集いに参加した時に思ったことだった。学校には寮生も多いため、他県から来ている生徒も多い。岡山県から来た生徒が「原爆落ちたの何時なん?」と聞いた時、広島出身の生徒が「そんな当たり前のこと知らんの?」と驚いていた。広島出身の生徒にとっての当たり前は他の県の生徒にとって当たり前ではない。同じように広島出身の生徒が長崎のことを知っているかという知らない。現に、広島出身の生徒に「長崎に原爆が落とされたのは福岡県の小倉の代わりだって知っていた?」と尋ねると、「知らない」という生徒が多かった。基準が異なったら「当たり前」は異なる。また、大久野島のガイド山内さんの話を伺って、相手と対話し、相手に歩み寄ることが本当の平和教育だと思った。そのため、当たりの基準とはどうやって決まっているのか?対話の基本であるコミュニケーションに必要な能力は一体何か?ということを考え、教材づくりに至った。

## この教材の使い方・アクティビティの解説

5つのアクティビティがあるが、それぞれ独立して使用することも可能である。

### 全体のねらい

- ・日本で安心して生活できるのはルールや言語を知っており、みんなの価値観が似ているからだ気づく。
- ・話すこととコミュニケーションは同じではないことを知り、コミュニケーションの本質を考える。
- ・同じ言語を用いても色々な価値観を持っていることを知り、自己開示を行い、対話を行うことで歩み寄ることを学ぶ。
- ・自分にとって平和とはどのような状態のことか考える。

### 学習計画（全4時間）

相手の価値観を認め、歩み寄ることを学ぶ。

1. 「ルールが違うってどういうこと?」
2. 「コミュニケーションって言語だけ?」
3. 「食べられる動物と食べられない動物」
4. 「色×数字×ジャンケン」

### 教科・領域との関係

道徳、総合的な学習の時間、総合的な探究の時間、特別活動等。

## アクティビティ1 「ルールが違っていてどういうこと？」

### ●概要

ルールが異なるトランプのカードゲームを行い、1名ずつ別の班に移動する。移動した後、会話は一切禁止とする。

### ●ねらい

ルールが異なる場合でのゲームを体験することで、どのような感情が生まれるのかを気づき、相手の立場を考える。ゲームの基盤はルールである。また、ルールは「言語」を介して理解に至る。ルールがわからないことに対する苛立ち、不安を体験することで、言語が分からない人の立場を理解する。

### ●主な対象

小学校高学年以上

### ●用意するもの

- ・トランプ：班の数
- ・㉠【共通ルール】（P86）：各班1枚
- ・㉢【各班のルール】（P87）：切ったルールを班ごとに1枚

### ●所要時間

45～50分

### ●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「これからゲームを行います。ゲームが終わるまで話してはいけません。それでは班に分かれて下さい。」</li> <li>2. ㉠【共通ルール】を各班に1枚配布する。</li> <li>3. 「このゲームはそれぞれの班でルールが少しずつ異なります。すべての班に共通するルールはカードの数字をぴったり「30」にするということだけです。そのため、ゲームの詳しいルールは配布する紙に書いています。この紙を各班に配布するので、読んだら、隣の人に渡してください。」</li> <li>4. ㉢各班のルールを配布する。</li> <li>5. 「それでは、まずはこの班で2回ゲームを行いましょう。はじめてください。」</li> <li>6. （全部の班が2回終わったら） 「それでは次に、一番初めにルールの紙をもらった人が隣の班に移動してもらいます。ただし、新しい班でルールを聞く、ヒントを出すなどの行為は認められません。班のルールと異なることを行った場合は、ジェスチャーで拒否してください。もちろん、ルールに関するヒント等を教えることは認められません。新しく班に入る人はどういったやり方なのか、みなさんの行動をよく見て、ルールを見極めてください。それでは移動してください。」</li> </ol>	<p>・事前に班を決めておく。人数は5人～6人ぐらいが良い。</p> <p>㉠【共通ルール】および㉢【各班のルール】はいずれもA4サイズ等大きめに印刷し、班員全員で一斉に黙読する形でも良い。</p> <p>※よく意味がわかっていない生徒がいたら、以下の例を出す。</p> <p>・例えば、前の班では5は倍になるというルールだったけど、新しい班ではそんなルールがなく、移動してきた人が、前の班のルールで上がろうとした場合、ジェスチャーで異なることを示してゲームを続行する。</p>

<p>7. (全員が移動し終わったら) 「この新しい班でゲームを2回行いましょう。それでは始めてください。」</p> <p>8. (全部の班でゲームが2回終わったら) 「ゲームを終えてみてどうでしたか？移動する前に行った場合と移動した後に行った場合ではどのような気持ちの変化がありましたか？移動した人は自分の気持ちを班の人に伝えましょう。」</p> <p>9. 「私たちが日本の中で安心して暮らせるのはその国のルールを知っているからです。なぜルールを知っているのでしょうか？それは、話されている「言語」を知っているからです。移動した人たちは、今回もやもやしたり、いらいらしたり、もしかしたらワクワクしたかもしれません。その気持ちが外国に行き、暮らした時の体験であり、また、ルールや日本語がわからない人が日本で暮らすときの気持ちです。その人たちが少しでも暮らしやすく過ごせるために何を変えていったらいいと思いますか？」</p>	
<p>ふり返り</p> <p>アクティビティを通して気づいたこと、また、「やさしい日本語」を紹介し、身近に困っている人に対してどのような対処がされているか考える。</p>	

**A [共通ルール]**

手持ちのカード7枚で、カードの合計点を30点ぴったりに揃えるゲームです。

- ①班全員に7枚ずつカードを配布する。
- ②残ったカードは中央に山を作って置く。
- ③1人ずつ中央の山からカードを引いていき、いらぬカードは捨てる。
- ④5回引いて30点ぴったりになれば、その時点でゲーム終了。5回引いても勝負が決まらない場合は、30点に近い人が勝ち。

## B【各班のルール】

※線で切って各班に渡す。

1班	ハートのカードを引いた場合、数字の値は2倍になる。
2班	「1」「ジョーカー」を引いた場合、好きな数字に変換できる。
3班	「11」「12」「13」を引いた場合、下1桁が適用される。 例)「12」を引いたら、使える値は「2」となる。
4班	「7」のカードを引いた場合は、もう1枚カードを引くことができ、「7」のカードもしくは新しく引いたカードのどちらかをゲームで使用することができる。よって、カード8枚で勝負を行うことができる。 ※ただし、「7」を引き、新しいカードを引く場合は、班全員に「7」のカードを引いたことを証明するために、「7」のカードを提示する。
5班	「3」「5」「7」のカードを引いた人は右隣の人のカードを1枚捨てさせることができる。攻撃された人は手持ちカード6枚で勝負することとなる。 ※「3」「5」「7」のカードを引いた人が右隣の人を攻撃する場合は、右隣の人にそのカードをきちんと提示する。
6班	すべての偶数のカードの値が半分。



## ●用語の解説

「やさしい日本語」

普通の日本語よりも簡単で、外国人にもわかりやすい日本語のこと。1995年の阪神・淡路大震災では、日本人だけでなく日本にいた多くの外国人も被害を受けた。その中には、日本語も英語も十分に理解できず必要な情報を受け取ることができない人もいた。そこで、そうした人たちが災害発生時に適切な行動をとれるように考え出されたのが、「やさしい日本語」のはじまりだと言われている。

（「2020年オリンピック・パラリンピック大会に向けた多言語対応協議会ポータルサイト」

（<https://www.2020games.metro.tokyo.lg.jp/multilingual/references/easyjpn.html>）より抜粋）

「バーンガ」

トランプを用いた異文化トレーニングのこと。ゲームを行った後に、ファシリテーターと行動を振り返りながら、価値観、感情的側面、行動様式などに見られる文化差を分析し、自分がどのように関与しているかを考えるトレーニング。（「日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド」第4版ヒューマンアカデミー，2020，p.253）

※アクティビティ1は「バーンガ」をもとに、執筆者が加工して作成したものです。

## アクティビティ2 「コミュニケーションって言語だけ？

### ーコミュニケーションの正体は一体何だろう？ー」

#### ●概要

ジェスチャーゲームを行い、コミュニケーションについて考える。

#### ●ねらい

コミュニケーションは「言語」だけで成り立ってはいないことを知り、どのようなコミュニケーション手段があるか考える。

#### ●主な対象

小学校高学年以上

#### ●用意するもの

- ・筆記用具
- ・ワークシート①（両面）（P91～92）：人数分

#### ●所要時間

45～50分

#### ●用語の解説

非言語伝達手段（ノンバーバルコミュニケーション）

言語以外によるコミュニケーションのこと。特に日本語は高コンテクストコミュニケーションの文化であるため、言語だけではわかりにくい場合が多い。

（「日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド第4版」ヒューマンアカデミー，2020，p.317）

● すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<p>1. 「6班のうち、1～3班は部屋の右側に集まり、4～6班は左側に集まってください。それぞれ『右グループ』『左グループ』とします」</p> <p>2. 「今からジェスチャーゲームを行います。ジェスチャーゲームとは、グループで決めたリーダーの真似をグループ全員が行い、誰がリーダーなのかを当てるゲームです。詳しいルールの説明を行います。まずは当てる人を『右グループ』『左グループ』それぞれから1人ずつ決めてもらい、その2名は外に出ます。部屋に残っている人が『右グループ』『左グループ』それぞれから1人リーダーを決めます。各グループのメンバーは、自分のグループのリーダーの真似を行ってください。リーダーが決まったら、外にいる人を呼んで、だれがリーダーなのかを当ててもらいます。それでは当てる人を決めてください。」</p> <p>3. 「決めましたか？決まったら、各グループから選ばれた2人は外に出ましょう。」</p> <p>4. 「それでは残っている人でリーダーを決めましょう。残っている人は、リーダーを当てられないように作戦会議も行ってください。」</p> <p>5. 「それでは外にいる人を呼んで、ゲームを行きましょう。」</p> <p>6. （ゲームが終わったら）元の6班の形に戻る。 「今回行ったゲームでは、『言葉を使う』という以外のコミュニケーションが行われていました。例えば、リーダーを当てられないようにするためにはみんなが自然とどういった工夫を行いましたか？言葉を使っていないにも関わらず意思疎通がとれていましたね。それではコミュニケーションとは一体何なのでしょう？ それぞれの班で当てられる人、当てようとした人の話をそれぞれ聞いてみてワークシートに記入しましょう。また、どういったコミュニケーションの手段があるのか考えて紙に書いて班でまとめてみましょう。」</p> <p>7. （15分経ったら） 「それではそれぞれの班でどういったコミュニケーションがあったのか、1班ずつ発表していきましょう。」</p> <p>8. 「それでは、班でコミュニケーションとは何なのか考えてみましょう。」</p>	<p>予め6班を作っておく。（ゲームの最後に班活動を行うため）</p> <p>選ばれた2人は外に出て待機する。</p> <p>外に出ている2人を呼び戻す。</p> <p>ワークシート①を配布する。</p>

<p>9. (15分経ったら) 「どの班が発表してくれる班はいませんか？」</p> <p>10. ふり返り 「日本語にも身体の一部を用いたコミュニケーションを表す言葉がたくさんあります。身体の中のどの部分が入るのが、ワークシートを埋めてみましょう。」</p> <p>11. 解説 「コミュニケーションの第一段階は『観察』から始まります。そのため、相手の表情や視線をよく『観る』、相手の声のトーンや速さなどをよく『聴く』ことが大切です。」</p>	<p>自分にとってのコミュニケーションとは何かをふり返る。</p>
--	-----------------------------------

●解説

ワークシート① (P92) の答え

1、目 2、顔 3、鼻 4、顔

クラス：                  番号：                  名前：

---

●ジェスチャーゲームを通して、リーダーを当てられないようにするため、リーダーを当てるため、どのようなことを行ったり、気を付けたりしましたか？自分の感想を書いてから、皆の感想を書いてみましょう！

<リーダーを当てられないようにするために…>

<リーダーを当てるために…>



このことから…

●どういったコミュニケーションの手段があると考えられますか？

●下の( )に入る言葉を埋めてみましょう。  
すべて、体の一部がはいります！

1. 白い(イ. )で見る。
2. すずしい(ウ. )。
3. (エ. )であしらう。
4. (オ. )から火が出る。

●コミュニケーションとは何でしょう？自分の言葉で書いてみましょう。

## アクティビティ3「食べられる？食べられない？」

### ●概要

「食べられる動物、食べられない動物（イルカ）」を個人で考えたあとで、グループ内で基準を考える。

### ●ねらい

- ・自分の意見と相手の意見の違いに気づき、開示し、歩み寄ることを学ぶ。
- ・物事の基準を考え他の人と比べることで、自分自身の価値観を知り、自己開示を行うことで、他者との協調を図る。
- ・コミュニケーションはキャッチボールが基本であり、一方向だけではないことを知る。

### ●主な対象

小学生高学年以上

### ●用意するもの

- ・イルカの写真もしくはスライド：何枚でも可
- ・ワークシート②（P95～96）：人数分

### ●所要時間

60分程度

### ●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<p>1. イルカの写真もしくはスライドを見せる。 「今日は水族館の人気者の『イルカ』に関して考えていこうと思います。まずはワークシート②に『イルカ』に対するイメージを3分間で書いてみてください。マインドマップを使って考えたら自分の考えが広がると思うので、ぜひ活用してみてください。」</p> <p>2. 「書けましたか？みなさん、イルカに関してこのようなイメージを持っているのではないのでしょうか？」 (出てきそうな答え)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・かわいい</li><li>・優しそう</li><li>・目がクリクリしていて表情豊かな気がする。</li></ul> <p>「それでは、本日のお題は『このイルカ、食べることができる？できない？』です。あなたにとって、『イルカ』は食べられる動物ですか、それとも食べられない動物ですか？丸で囲み、個人で『なぜ食べられる動物なのか、食べられない動物なのか』の理由を考えてみましょう。『何となく』という理由は使用しないでください。それではワークシート②表側の理由の所に記入しましょう。」</p>	<p>ワークシート②を配布する。</p>

3. (5分経ったら)

「今度はグループで意見交換を行います。全員の意見を聞いた後、自分の意見を変えたいのであれば変更してもらっても構いません。ワークシート②の裏側にグループの意見を書くスペースもあるので利用してください。」

4. (10分経ったら)

「それでは全グループの意見を聞いてみましょう。」

5. 「それでは、次に『基準』を5つ決めてもらいます。基準を考える時は、それぞれの理由を具体的に考えてみるとわかりやすいかもしれません。例えば、『イルカを食べるのがかわいそうだと思った』のであれば、『なぜ、かわいそうと思ったのか?』です。これに対する答えとして『コミュニケーションができるから』など出てきますよね。『なぜ〇〇と思ったのか?』ということに関してグループで考えてみてください。たくさん『基準』が出てくると思いますが、『基準』が5個決まったら『基準』の優先順位をグループ内で話し合ってみてください。時間は30分間です」

6. 「みなさん、『食べられる動物』か『食べられない動物』かの基準を決めることができましたか? イルカを食べることをためらう原因は何でしょうか? たくさん基準があったと思います。基準の種類も優先順位も人によって異なり、まとめることはすごく難しいと思います。しかし、相手に自分の意見を伝える、または相手の意見を聴くということをしなければ『基準』を決めることはできません。」

7. ふり返り

「基準」を決めるときに必要なことをふり返る。

黒板に意見を書く。

お互い納得しながら基準を決めるようにすること。多数決やジャンケンでは決めないことを伝える。

理科の動物の種類や社会の問題（捕鯨問題など）とつなげて考えさせても良い。また、日本にはイルカを食べる文化があることを伝える。

クラス：                  番号：                  名前：

---

- 「イルカ」に関してどのようなイメージを持っていますか？

イルカ

食べられる

食べられない

<理由>



●グループの意見をメモしましょう。

(裏面)

●「基準」に優先順位をつけてみましょう。

「自分」の順位

順位	
1	
2	
3	
4	
5	

「グループで決めた」順位

順位	
1	
2	
3	
4	
5	

●ふり返り

不満←

→満足

- |                        |   |   |   |   |   |
|------------------------|---|---|---|---|---|
| 1. 自分の意見を伝えることができましたか？ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 相手の意見を聴くことができましたか？  | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. 納得できる話し合いでしたか？      | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

## アクティビティ 4 「色×数字×ジャンケン」

### ●概要

ジャンケンを「色×数字」で考え、グループ内で比較し、グループ内で話し合っってジャンケンの「色×数字」を選ぶ。トランプでジャンケンを作成し、そのルールをグループで作成し発表する。

### ●ねらい

- ・価値観の違いを認識し、対話を通しながら協働する。
- ・「当たり前」のことで別のものに置き換えると、人によって考え方が異なることに気づき、異なる理由を相手から学び自分の視野を広げる。
- ・ルールを作成することでお互いに歩み寄ることを学ぶ。

### ●主な対象

小学生高学年以上

### ●用意するもの

- ・ワークシート③（P99～100）：全員分
- ・B6の画用紙：3枚×グループ分
- ・模造紙：各グループ1枚
- ・マジック：各グループ1セット
- ・トランプ：各グループ1セット

### ●所要時間

120分

### ●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<p>1. 「今日はみんなにジャンケンについて考えてもらいます。ワークシート③の表側を見てください。世界にはこのように様々なジャンケンがあります。」</p> <p>「それではワークシート③の裏側を見てください。今から個人でグーチョキパー、それぞれの色と数字をイメージしてください。ただし、色は赤、青、黄色、緑、黒、白の5色、数字は1～12までです。それぞれ1回ずつしか使えません。」</p> <p>2. 「イメージできましたか？できたら、理由と共に書いてみましょう。理由は『何となく』以外で書いてみるようにしてみましょう。」</p> <p>3. （5分経ったら）</p> <p>「今度はグループで見せ合いっこをしてみてください。ただし、感想はポジティブな感想にすること。自分と違うからと言って否定してはいけません。誰とどんなところが一緒だったのか、異なったのが発見できたらいいですね！」</p>	<p>ワークシート③を配布する。</p> <p>※ジャンケンを知らない人がいないか確認する。</p>

<p>4. (15分経ったら) 「次にグループでじゃんけんの色、数字を話し合って決めてもらいます。決定したら、画用紙を配るので、その紙に決めた色で決まった数字を書いてください。」</p> <p>5. (20分経ったら) 「それでは、グループごとに前に描いた画用紙を貼ってみましょう。」</p> <p>6. 『ジャンケン』はみんな知っているのに、『色』や『数字』など、別のことで考えてみると、色々なジャンケンの種類が生まれましたね。これは人によって考え方が異なるからです。そして、その考え方には様々な理由があります。」</p> <p>7. 「それでは仕上げです。班ごとに『トランプジャンケン』のルールを決めて模造紙に描いてもらいます。どの数字を『グー、チョキ、パー』にするのかなどを考えてください。また、ジョーカーはすべてに勝つなど新しいルールを追加しても構いません。見ている人が理解しやすいように、また、ワクワクするような紹介の仕方を書くようにしましょう。もちろん絵などもどんどん描いてみてくださいね。それでは始めてください。」</p> <p>8. (40分経ったら) 「書き終わりましたか？模造紙を机の上に置いて、1人代表者が残って、隣のグループのルールを見に行きましょう。残った代表者はルールの説明を行きましょう。」</p> <p>9. 「それでは次のグループに移動してください。」</p> <p>10. (すべてのグループを見終わったら) 「代表者は頑張って説明をしてくれました。まずは代表者に拍手しましょう。」 「また、別グループと共通する点、異なった点はどこでしたか？また、面白そうだなと思ったグループがあったら、理由と共に代表者に教えてあげてください。」</p>	<p>B6の画用紙を各班3枚ずつ配布する。</p> <p>黒板に画用紙を貼っていく</p> <p>※全員が参加しているのか見回る。</p> <p>模造紙、マジックを各グループに配布する。</p> <p>代表者（発表者）を複数決めて途中で交代しても良い。</p> <p>代表者に拍手やねぎらいの言葉をかける。</p>
<p>ふり返り 本日の感想等を記入する。</p>	

クラス：                      番号：                      名前： \_\_\_\_\_

## 世界のジャンケンを見てみよう！

【ベトナム】：オアントウスイ  
 グー=Búa (ブア) = かなづち  
 チョキ=Kéo (ケオ) = はさみ  
 パー=Bao (バオ) = 袋  
 あいこは huè (フエ)



【インドネシア】：スイー  
 親指=象 (ガジャ)  
 人差し指=人 (オラン)  
 小指=アリ (スムット)  
 人はアリに勝ち、アリは象に勝ち、象は人に勝ちます。

【アメリカ】：ストーン、シザース、ペーパー  
 グー=stone (石)  
 チョキ=scissors (はさみ)  
 パー= paper (紙)



●自分の考え ※色、数字とも1回ずつしか使えません！！

(裏面)

色：赤、青、黄、緑、黒、白

数字：1～12

	色	数字	理由
ゲー			
チョキ			
パー			

●グループで決まった考え

	色	数字	理由
ゲー			
チョキ			
パー			

●ふり返り

不満←

→満足

- |                        |   |   |   |   |   |
|------------------------|---|---|---|---|---|
| 1. 自分の意見を伝えることができましたか？ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 相手の意見を聞くことができましたか？  | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. 納得できる話し合いでしたか？      | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

●感想

## ●おわりに

「平和」とは一体何なのだろうか？ JICA 中国の教師国内研修に参加するまで私は戦争がない状態が平和なのだと思っていた。平和に関しての本を読んだり、研修に参加した先生たちと話をすればするほど単純に「暴力がない世界＝平和じゃないのでは？」と思うようになった。「みなを平和に」。そんな解決できないんじゃないか、とモヤモヤする期間を過ごしていた。

そんな中、教師国内研修のフィールドワークで大久野島のツアーに参加した。日本が東アジアや東南アジアに対して、冷徹な攻撃を行っていたことは知っていた。私自身「もう謝罪したからいいんじゃないか」と目を背けていた。訪れた大久野島は毒ガス工場として戦時中使用されており、ここで作った毒ガスが中国へ運ばれ、使用されたため、中国では数多くの犠牲者が出た。そのことを知ったガイドの山内さんは大久野島の事実を伝えるために、ツアーガイドを始め、被害にあった中国人の方に何度も会いに行き、相手に寄り添って話をしている。相手は絶対に日本人を恨んでいる。それでも訪れ、対話をする。その話を伺って、私は「対話」の凄さを実感した。育つ環境、人種、宗教によって平和の概念は異なるのだろう。だから日本国内で平和教育をしても、地域によって温度差が生まれるのだ。この温度差をできる限り埋めるために、みんなが使える平和教育の教材としてたどり着いた題材が「対話」だった。

私が作った教材に対して正直自信はないため、必ず使ってください！とは思えない。でも平和を叶える手段として「対話」が重要だって言っていた人がいたな～ぐらいを覚えてもらえたならすごく嬉しいです。

最後に、今回このような教材を作るにあたって、機会をくれた JICA 関係者の皆様、研修への参加を許可してくれた学校関係者、研修を行ってくださった皆様、本当にありがとうございました。そして「教材づくり無理ー！」とか「ほんま意味わからん」とか愚痴を言えるぐらい気の置けない人達になった教師国内研修に参加したみんな、お疲れ様&ありがとうございました！

## 参考文献・資料

- ・「やさしいにほんご」作成のためのガイドライン」弘前大学言語学研究室 2013  
([https://www.fdma.go.jp/singi\\_kento/kento/items/kento207\\_20\\_sankou5-6.pdf](https://www.fdma.go.jp/singi_kento/kento/items/kento207_20_sankou5-6.pdf))
- ・「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」出入在留管理庁文化庁 2020  
([https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo\\_nihongo/kyoiku/pdf/92484001\\_01.pdf](https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/pdf/92484001_01.pdf))
- ・2020年オリンピック・パラリンピック大会に向けた多言語対応協議会ポータルサイト  
(<https://www.2020games.metro.tokyo.lg.jp/multilingual/references/easyjpn.html>)
- ・「日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド第4版」ヒューマンアカデミー 2020
- ・「日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド第4版」ヒューマンアカデミー 2020
- ・「子どもとできる創造的な対立解決実践ガイド」モーニングサイドセンター 2010
- ・「イルカと心は通じるか」村山司 新潮新書 2021
- ・「答えのない道德の問題 どう解く？」  
(<https://www.poplar.co.jp/topics/45607.html>)
- ・捕鯨は是か非か？  
(<https://concoirs.toshokan.or.jp/wp-content/uploads/contest-data/230004/#p=7>)
- ・「はじめての動物倫理学」田上孝一 集英社新書 2021
- ・「アニマルウェルフェアとは何か」枝廣淳子 岩波ブックレット 2018
- ・「世界のジャンケン大集合」田中ひろし 今人舎 2009
- ・「世界のじゃんけん」堺市国際部アセアン交流推進室  
(<http://www.city.sakai.lg.jp/shisei/kokusai/aseankoryu/kids/aseaninformation/learningaboutasean.files/5janken.pdf>)

## 「友好交流」と「戦争の実相を伝える」 ことの大切さ

山内 正之

1944年私は中国の瀋陽で生まれました。満州から引き揚げて日本に帰国したのが1946年10月でした。私の家族は敗戦後、1年2か月の間、中国で生きるか死ぬかの生活を余儀なくされました。敗戦時、私は1歳未満の未熟児で、栄養失調で何時死ぬか解らない状況だったそうです。其の時、私の家族を支えてくれたのが中国人でした。中国に侵略し、莫大な中国の人たちの命や財産を奪った日本人の私達を中国の人たちが助けてくれたのです。おかげで、命からがら満州から日本に帰国することができたのです。幼い頃から、このことを親から聞きながら育った私の心には中国と日本の国境はありませんでした。中国は私の生まれ故郷であり、中国の人たちが私の命と家族を守ってくれた。戦争が人間を不幸にする。この思いは大人へと成長していく中で私の心の中で自然に膨らんでいきました。私が高校の教員となり、生徒たちと接する時にも、「一人一人の命と人格を大切にす」「戦争は絶対いけない。」という強い思いが教育活動の根底にありました。

満州から引き揚げてから37年後の1983年、私は中国を訪問し、日本の中国侵略の事実を現地で学習しました。南京大虐殺の現場などを訪問し、日本が中国で行った加害の実相を学び、戦争の悲惨さを実感しました。大久野島で製造した毒ガスによる中国遺棄毒ガス被害者との交流が始まったのは1997年からです。何度も中国を訪問し、現在でも中国の人たちとの交流は続いています。中国や韓国の人たちが広島に来られた時は、広島原爆資料館と大久野島の毒ガス資料館を案内します。資料館の見学後、「日本も戦争の被害者だったのですね」という感想を多く聞きました。友好交流を続ける中で私は国境を越えた国民の相互の信頼の育成が平和の第一歩だと思うようになりました。

その後も機会ある度に、戦争の爪痕が残された地、大韓民国のナヌムの家、朝鮮民主主義人民共和国、ポーランドのアウシュビッツ強制収容所跡、米国ハワイのアリゾナ記念館などを訪問して現地での学習や交流に努めました。国境を越え、交流を進める中で、私は戦争を避けるには国民と国民の信頼関係がその基礎になる、異なる文化・異なる生活様式を相互に理解し合い、人間としての信頼関係を築いていくことが戦争を防ぐ力になると確信しました。どの国の国民も戦争はしてはいけないと強く願っています。お互いに理解し合い、戦争を起こさないようにしなければなりません。「戦争を望んでいる国民は世界中、どこにもいない。」「人間と人間が殺し合うことを望む人間はいない。」そのことを若い世代に伝えていくことが大切だと思っています。

莫大な尊い命と財産が失われた戦争が終結して76年が経過しました。其の悲惨な戦争の体験者も少なくなり、戦争の捉え方の重みが軽くなっているのではないかという心配があります。同じ過ちを繰り返さないために、76年前の戦争の実相を、未来を担う子どもたちに伝えなくてはなりません。そのためには、戦争は被害もあれば加害もあることを子どもたちに知ってもらわなければならない。しかし、日本の現状を見ると、マスコミが流す情報や学校での平和学習の内容は原爆被害など日本が受けた被害の内容がほとんどで、子どもたちは日本の戦争加害について学ぶ機会があま

りにも少なのではないかと思います。

まず私たち自身が76年前の日本の戦争加害を意識し、その実相を学び、それを何らかの方法で子どもたちや若い世代に伝えていく営みを始めましょう。私達一人一人が自分なりの方法で戦争の被害と加害の実相を語り続けることが未来を担う子どもたちが戦争のない未来をつくる力をつけてくれると信じます。私も命ある限り大久野島で語り続けたいと思っています。同じ広島県内で起った広島原爆被害と大久野島の毒ガス加害の実相を知ることで、子どもたちは「戦争は被害者にもなり、加害者にもなる」ことを知り、戦争の悲惨さ、愚かさを考えるきっかけになると思います。

### 【プロフィール】

山内 正之（やまうち まさゆき）

広島県公立高校社会科の教員時代から大久野島の毒ガスの歴史について調査・研究している。退職後はその実相を伝える活動をしながら、幾度も中国を訪問、日本が使用した毒ガスによる中国の被害者の実情などを現地調査し、被害者との交流や支援活動を行っている。大久野島に平和学習に来られる団体に遺跡案内や講演を通じてその実相を伝えるとともに、大久野島の毒ガス被害の証言や資料を集め、会報や書籍として発行し、多くの人に毒ガスの被害・加害の事実を知ってもらう活動を進めている。

\*山内さんが執筆・監修されている大久野島に関するサイト：

「大久野島から平和と環境を考える会」<http://dokugas.server-shared.com/>



毒ガス被害を受けた中国の北担村で村人との交流  
被害者の冥福を祈って追悼式をしている様子



大久野島で子どもたちに講和している山内さん



## 最後に一学びのふり返りー

「学びのプログラム集」は、2021年6月から11月までの間に、JICA中国が「教師国内研修」として、P5のスケジュールで講義やフィールドワークを実施し、その参加者がその中で気づいたこと、学んだことをもとに作成した学びのプログラムをまとめたものです。

本誌に記載されている学びのプログラムの主たるテーマは「多様性」「持続可能な社会」です。そして、各章に掲載された学びのプログラムはそれぞれ単独で活用することが可能なように配慮して編集にとりくみました。また、各章に掲載されている学びのプログラムを、そのままの形で授業実践に取り入れることもできると同時に、必要な部分だけを取り出し、今実践されている授業の中で組み込むことも可能なものであると確信しています。授業実践の場において、目の前の生徒の状況や背景等を考慮して、実践される先生方がそれぞれ工夫をこらして、授業づくりに活用していただければ幸いです。

また、各学びのプログラムの最後には、それぞれのふり返りをするアクティビティやワークシートが示されています。そのふり返りで授業を完結することもできます。しかし、本誌に掲載された学びのプログラムのある部分を組み合わせて授業構成を考えた場合などに使用することを想定した最後のふり返りとして、以下のふり返りのプログラムを提案します。これは、どの学びのプログラムのふり返りとしても扱うことができるものとして作成しています。

### ●学びのふり返りプログラム

ねらい：自分の学びについてふり返る

対象：教師、生徒

用意するもの：ふせん（できれば2色）

### ●すすめ方

- (1) 4人程度のグループになる。
- (2) この学習で学んだこと（教材で扱われている事柄）について、これまでに知っていたことはどんなことか。ふせん1枚につき、1つずつ書く。
- (3) グループ内で、ふせんに書いた内容について紹介し、1枚ずつ以下の問いについて共有する。この時、一人の人がふせん1枚について①～④までの問いの回答を続けて行う。ふせん1枚の回答が終わったら、次のふせんの内容についてまた①～④まで回答する。
  - ①いつ、どのようにして、そのことを知ったか。
  - ②それを知ったときに、感じたこと。
  - ③どんな時にその知識を活用したか。
  - ④そのことを知って、どんな行動をしたか。その理由は何か。
- (4) この学習（教材で扱われている事柄）で、新しく知ったこと・わかったことはどんなことか。異なる色のふせん1枚につき、1つずつ書く。
- (5) グループ内で、ふせんに書いた内容について紹介し、1枚毎に下記の①②の問いについて共有する。この時、一人の人がふせん1枚について①②の問いの回答を続けて行う。ふせん1枚の回答が終わったら、次のふせんの内容についてまた①②の回答をする。
  - ①新しく知ったこと、わかったことはどんなことか。
  - ②なぜ、そのことについてこれまで知らなかったのか。また、なぜ、知ろうとしなかったのか。
- (6) グループ内で感想を共有する。

本誌は、学校現場で日々、児童生徒と向き合いながら「持続可能なより良い社会づくり」に参加することができる人を育てようと奮闘している教師が、自らの気づきや学びをもとに、試行錯誤を繰り返しながら作成した学習プログラム集です。

是非、教室や社会教育の場で活用していただき、ご意見を賜ることができれば、今後のJICA中国主催の研修会や教員対象プログラムをよりよいものにすることが可能となります。児童生徒を育て、教師を育て、地域を育てるネットワークが、今、必要な時代になっていると考えます。これを機会に、このような授業づくり、学習プログラムづくりに参加していただけることを切に願っています。

今後とも、よろしくお願いいたします。

JICA中国教師国内研修アドバイザー 山中 信幸（川崎医療福祉大学 教授）

JICA中国開発教育支援事業担当 新川 美佐絵

【発行】 独立行政法人国際協力機構 中国センター（広島県東広島市鏡山3-3-1）

【監修】 山中 信幸（川崎医療福祉大学教授）

【学びのプログラム作成者（2021年度JICA中国教師国内研修参加者）】

- ・ 阿部 友彦（岡山市立高松中学校）
  - ・ 勝部 知早野（松江市立竹矢小学校）
  - ・ 下田 旭美（独立行政法人 国立高等専門学校機構 広島商船高等専門学校）
  - ・ 関 悠夏（香川県坂出市立林田小学校／2019年度教師海外研修参加）
  - ・ 福島 未希（AICJ中学・高等学校）
  - ・ 山中 信幸（川崎医療福祉大学教授）
- （五十音順・所属校は参加時のもの）

---

\* フィールドワークやオンライン講義でお世話になったラパス日本語学校の先生方と児童生徒のみなさん、在パラグアイ広島県人会長の河野敏さん、「大久野島から平和と環境を考える会」代表の山内正之さん、津山市役所の田中陽子さん、安本勝博さん、社会福祉法人やすらぎ福祉会理事長の平井尚隆さん、大紀産業株式会社代表取締役社長の安原宗一郎さん、島根県雲南市「多文化交流カフェSoban」の李在鎮さん、「一般社団法人 ダイバーシティうんなんtoiro」の芝由紀子さん、「日本語交流クラブ GOTO☆ワンハート」の山藤美之さん、山藤千世子さん、2020年度開発教育教員研修アドバンスコースご参加の川上典剛先生、坪池由美子先生をはじめ、本研修にご協力・ご指導頂いたすべての皆さまに心より感謝申し上げます。

